

保險者カ遲滞ナク之ヲ保險者ニ通知スルコトヲ怠リシトキ(旅行傷害保險ハ之ヲ除外ス)

以上五項ノ外被保險者カ進ンテ甚シク冒險ナル行動ニ出テタル場合ニ對シテモ亦保險者ハ其責ヲ免ルルコトトシ凡ソ左ノ規定アリ

(六) 被保險者カ騎馬競争未開地探檢高山攀登單身舟行ヲ試ミ風船飛行器ニ乘リ浴場又ハ游泳場以外ニ於テ游泳中災害ヲ招キタルトキ

又戰爭變亂ノ爲メニ生スル死傷ハ通常其危險甚大ニシテ保險者ノ堪ユル能ハサル所ナルヲ以テ之ヲモ亦除外スルヲ普通トスト雖トモ此危險並ニ第六項ノ危險ニ對シテハ特ニ増加保險料ヲ徵收シテ其責ニ任スルコト無キニ非サルナリ

第四 保險金ノ請求

傷害ハ火災難船人類ノ死亡等ト異リ直チニ其結果ヲ知ルヲ得サルコト多キヲ以テ保險者ノ責任ハ事故發生後一定ノ期間ニ亘リテ繼續セザルヘカ

ラス即チ例ヘハ災害ノ結果一箇年以内ニ死亡シ又ハ一箇年以内ニ不具癱疾ト爲レル場合ヲ保險スルモノナルヲ以テ罹災ノ當時ハ幸ニ輕傷ニシテ數日ノ療養ノ後治癒シタリト見エタルモ數月ノ後之カ原因ト爲リテ死亡シタルコトノ證明アラハ保險金ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルナリ

保險金ノ請求ヲ爲ス者ハ被保險者ノ死ニ至ラサル場合ニ在リテハ被保險者自身若クハ其代理人ニシテ死亡ノ場合ニハ其相續人ト定メタリト雖トモ外國ニ在リテハ猶生命保險ニ於ケルカ如ク特ニ指定セラレタル保險金受取人ヲ以テ爲サシムル習慣無キニ非ス而シテ其手續ハ被保險者死亡ノ場合ニハ請求者ヨリ死體檢案書又ハ死亡證明書並ニ其資格ヲ證明スル所ノ戶籍謄本若クハ其他ノ書類ヲ提出セシメ被保險者カ不具癱疾ト爲リタル場合ニハ本人ヨリ不具癱疾ノ事實ト程度ヲ證明スル醫師ノ診斷書ヲ又被保險者カ治療費ヲ受ケント欲スルトキハ身體損傷ノ程度ヲ證明スル所ノ醫師ノ鑑定書ヲ差出サシメ保險者ハ之ヲ調査シ一方ニハ又自己ノ囑托

醫損害整理員代理者等ノ意見ヲ參酌シテ支拂フヘキ保險金額ノ決定ヲ爲シ請求者ニ於テ異議ナケレハ直チニ之ヲ交付スルモノトス

而シテ萬一請求者ニ於テ保險者ノ決定ヲ承認セサルトキハ之カ全然保險契約ノ效力ニ關シ又ハ保險者ノ支拂義務ニ關スル場合ハ法廷ニ訴フルヲ妨ケサルモ之カ損傷ノ程度即チ保險金額ノ多寡ニ關スル場合ニハ濫訴ノ弊ヲ免レンカ爲メニ仲裁裁判ノ方法ニ據ラシメ即チ雙方ヨリ一名ツツノ鑑定人ヲ選定シ之ヲシテ決定セシメ鑑定人ノ意見一致セサル場合ニ於テハ鑑定人合意ノ上一名ノ仲裁人ヲ選定シ之ヲ判斷セシムルコトトスルコト火災保險ニ於ケルト同様ナリトス

第五 保險料ノ割戻

旅行傷害保險ニハ時トシテハ十年十五年又ハ終身間ト云フカ如キ長期ノ契約無キニ非サルモ是等ハ寧ろ稀ナル場合ニシテ通常ハ甲地ヨリ乙地ニ至ル一旅行ヲ保險セシムルモノニシテ此目的ニ添ハンカ爲メニ保險會社

ハ一箇年ヲ最長期間トシ之ヨリ短キ數種ノ期間ヲ定メテ之ニ對スル保險料額ヲ提示セリ歐洲諸國ニ行ハレ又我國ニ行ハレントスル保險料表ハ凡ソ左ノ如シ

金額	期間
一、〇〇〇圓	二日
一、一〇〇圓	四日
一、一五〇圓	八日
一、二〇〇圓	十五日
一、二五〇圓	一个月
一、三〇〇圓	四十五日
一、四〇〇圓	三个月
一、六〇〇圓	六个月
一、九〇〇圓	一年
一、二〇〇圓	一年

此ノ如ク非常ニ低率ナルモノナルヲ以テ縱令保險金ノ支拂額僅少ニシテ會社カ剩餘ヲ得タリトスルモ之ヲ保險契約者へ割戻スカ如キハ煩累ヲ招クニ過キサレノミナラス此ノ如キ通過的ノ保險契約者ニ對シテ之ヲ爲サント欲スルモ不可能事ナリ故ニ此種ノ傷害保險契約ニ在リテハ保險料ノ割戻ハ問題タラスト雖トモ普通傷害保險ノ契約ハ一箇年ヲ契約期間トシ單純ナル更新保險料ノ拂込ニ依リテ年年繼續シ長キハ數十年ニモ及フノミナラス保險料額モ亦寡少ナラサルヲ以テ保險契約者ノ利害關係頗ル厚

シト謂ハサルヲ得ス故ニ保險事業カ相互救濟ノ團結タル趣旨ヨリスレハ其會社ノ相互組織タルト株式組織タルトヲ問ハス保險料ヲ以テ剩餘ヲ生シタル場合ニハ其一部ヲ割戻スコト希望スヘキ方法ナリ殊ニ斯業ノ經驗日尙淺キ間ニ在リテハ安全ノ爲メニ見込ヨリモ稍高率ナル保險料ヲ徵收スルノ必要アルヲ以テ斯クシテ幸ニ剩餘ヲ生シタラハ其一半ヲ保險契約者へ返戻スルコト保險ノ道理ト保險事業ノ德義ニ協ヘリ即チ予カ計畫ノ會社ニ於テハ滿三箇年以上保險料ヲ拂込ミタル者ニハ此割戻金ヲ受クルノ權利ヲ附與スルコトトセリ

第六 被保險者ノ求償權

被保險者カ他人ノ惡意若クハ過失ニ因リテ身體上ノ損傷ヲ被リ甚シキハ死ニ至リタル場合ニ在リテハ本人又ハ相續人ハ加害者ニ對シテ民事上ノ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得被保險者ノ求償權トハ之ヲ謂フナリ損害保險ニ在リテハ此ノ如キ場合ニ於テ求償權ハ保險金ヲ支拂ヒタル限度ニ於

テ保險者ニ移轉スルヲ法律上ノ原則トスルモ傷害保險ニ在リテハ保險者ハ此權利移轉ノ利益ヲ拋棄スルノ習慣アリ通常保險約款ニ於テ之ヲ明言シ被害者タル被保險者又ハ其相續人ヲシテ尙隨意ニ第三者ニ對スル求償ノ權利ヲ行ハシムルコトトセリ

第三者ニ對スル求償權カ保險者ニ移轉セストスレハ被保險者又ハ其相續人ハ保險會社ヨリ保險金ノ支拂ヲ受ケタル以上ハ第三者ニ對シテハ最早損害要償ヲ爲ス能ハサルニ非スヤ或ハ少クトモ其要償額ヨリ既ニ受ケタル保險金額ヲ控除セサルヘカラサルニ非スヤトハ往往ニシテ起ル所ノ問題ナルヲ以テ最近英國ニ於テハ明文ヲ以テ保險金ノ受領カ求償權ヲ妨ケサル旨ヲ規定セリト聞ケリ然レトモ人類生命身體ノ價值ハ金錢ヲ以テ絶對的ニ評價セラルヘキモノニ非サルヲ以テ法律ノ明文ナシトスルモ被害者ノ求償權ハ傷ケラレサルヘシ傷害保險ニ就テハ保險雜誌第八八號乃至第一〇八號所載拙稿奇災保險論ニ尙詳論アリ參照ヲ乞フ

第六章 疾病保險

前章ニ於テ稍綿密ナル講究ヲ試ミタル傷害保險ト其性質上ノ類似ヲ有スルハ疾病保險ニシテ之ヲ詳述スルトキハ重複ニ陥ルノ恐アルヲ以テ故ラニ之ヲ簡約シ讀者ヲシテ自然ニ此保險ノ方法ヲ會得セシメント欲ス

疾病ハ吾人ノ生涯中ニ最數數發生スル所ノ災禍ニシテ之ニ遭フトキハ醫藥ニ醫藥ノ費用ヲ要スルノミナラス一定ノ職業ニ依リテ衣食スル者ハ之ヲ休止セサルヘカラサル結果自己並ニ家族ノ生活ヲ支フル能ハサルニ至ル是ヲ以テ疾病ニ對スル救濟ノ方法ハ比較的古クヨリ行ハレ中世ノ「ギルド」ニ於テモ組合員ノ罹病癱疾ニ際シテ扶助料ヲ給スルノ方法ハ最普通ニ設ケラレタリ然レトモ此保險ハ之ト最密着ノ關係アル生命保險ノ如ク保險トシテ儼然タル體形ヲ備フルコト遅ク今日ト雖トモ之カ自治體又ハ地方的團體ノ設立ニ係ル所ノ疾病會又ハ友愛組合ニ於テ營マルルコト多キナリ是レ疾病ノ災禍

ハ死亡ノ如ク顯著ナラサル代リニ其發生數ニ於テ遙ニ多キカ故ニ範圍ノ狹キ一地方ニ於ケル經營ヲ難シトセス又疾病ニハ輕重ノ間ニ非常ナル懸隔アリテ扶助ヲ要スル程度ニアルヤ否ヤヲ決定スルノ便宜ハ寧ロ大組織ノ事業ヨリ監視ノ眼多キ地方的小組合ノ有スル所タリ且又其基礎タル統計ヲ得ルノ困難少カラサル等ノ事情ヨリシテ大企業ノ保險會社ハ永ク成立ノ機會ヲ得サリシカ千七百十六年始メテ英國ニ「ゼネロス、ソサエテ、オブ、インシュアランス」ナルモノ起レリ此結社ハ相互組織ニ基キ四千四百人ノ社員ヨリ成立シ各社員カ入會金一志ト印紙代ヲ支拂ヒ後毎週六片ツツノ保險料ヲ拂込ムトキハ疾病又ハ不具ノ爲メニ職業ニ從事スル能ハサルニ至リシトキ毎月二百五十磅ノ保險金ヲ受取ルコトヲ得而シテ此癱疾又ハ不具ノ鑑定ハ業務擔當員ノ指定ニ係ル二人ノ法律家ノ行フ所トセリ而シテ疾病保險ハ長ク此ノ如キ不完全ナル方法ヲ以テ行ハレシカ百年ヲ經タル後即チ千八百二十年「ゼネラル、ベネフィット、カムパニー」設立セラレ疾病保險ニ稍顯著ナル進步ヲ與ヘ爾來

數多ノ會社相尋テ起リ或ハ生命保險會社カ之ヲ兼業シ今日保險事業中ニ重要ナル地位ヲ占ムルニ至レルナリ獨逸ニ在リテハ千八百六十九年「ハムブルヒ」ノ「ウイルヘルム、ラツァルス」ナル人保險ノ雜誌上ニ疾病保險ニ關スル論文ヲ掲ケ癱疾即チ永久ニ職業ニ從事スル能ハサル危險ニ對スル保險ニ就テ統計竝ニ數理上ノ材料ヲ公ニセシカ二三ノ鐵道會社ニ於テ之ヲ採用シテ良好ナル結果ヲ得タリト云ヘリ而シテ獨逸ハ「ギルド」ノ本據トシテ所在之ヨリ分科發達シタル疾病金庫（*Vrankenkasse*）ノ存立ヲ見タリシカ千八百八十一年「ウイルヘルム」第一世ノ詔勅ニ基キ同八十三年六月疾病保險法發布セラレ前章ニ述ヘタル傷害保險ト同シク社會ノ下層階級ニ對シテ普ク此保險ヲ強制シ從テ民業保險ノ興隆ヲ見ルヲ得スト雖トモ世界ニ於テ此保險ノ最恩澤多キ處ト謂ハサルヘカラサルナリ

我邦ニ於テモ疾病救濟ノ思想ハ夙ニ發達セシナルヘシト雖トモ保險トシテノ實行ハ未タ殆ント無シト言ハサルヘカラス明治二十七八年ノ頃ニ勃興シタル各地ノ類似保險ニハ往往之ヲ其營業ノ科目ト爲セシモノ無キニ非サリシモ是レ素ヨリ保險トシテ舉クルニ足ラス明治二十六年五月ノ設立ニ成ル職工生命保險會社同六月ノ内國生命病災保險會社（今ノ内國生命同年ノ北海道勞働者保險會社同二十七年十月ノ大阪病傷保險會社等）之ヲ營ミ先ツ職工社會ヲ第一著トシ進ンテ一般ニ及ホサントノ企畫ナリシモ本邦ニ於ケル保險思想ノ不發達特ニ職工ノ如キ知識ノ程度低キ社會ハ此事業ヲ成功セシムル能ハス各社皆幾モナクシテ之ヲ廢シ以來十數年殆ント之ヲ計畫スル者スラ無シト雖トモ我社會ニ於ケル勞者保護ノ必要ハ日ヲ逐ヒテ其度ヲ高メツツアリ而シテ其最有力ナル手段ハ實ニ此疾病保險ニ在リ之カ施設ノ官私ヲ問ハス吾人ノ速ニ其實現ヲ見ント欲スル所ニシテ傷害保險ト竝行兼營スルカ如キハ最便宜ヲ得タリト言ハサルヘカラス

第七章 家畜保險

家畜ハ運輸ト農事ニ必要ニシテ又吾人ノ被服食料ニ缺クヘカラス加之諸般ノ製造原料ニ大ナル補助ヲ與フル所ノ貴重ナル財産ナリ故ニ之カ保險ヲ行フコトハ農業ノ發達ヲ助ケ牧畜ノ隆盛ヲ招キ工業ヲ助長シ商業ヲ進歩セシメ且一朝國家ノ急ニ應セシムルニ有力ナル手段ナリ

歐米諸國ハ家畜ヲ利用スルノ盛ナル固ヨリ本邦ト同一ノ論ニアラス而シテ之ニ對スル疫病ノ流行モ年ト共ニ増加スルノ傾向アルカ故ニ家畜保險ノ經營亦從テ盛ニシテ到ル處ニ會社ノ設立ヲ見ルト雖トモ其沿革ヲ討尋スレハ少カラサル困難ト變遷ヲ經過シ來レルナリ大古「ヘブル」隊商カ組合員ノ馬匹ヲ喪ヘル者ニ對シテ共同ノ填補ヲ行ヒタル事蹟ハ此保險ノ起源トモ言ツヘク又中世ノ「ギルド」ニ於テモ家畜保險ハ其有力ナル目的ノ一ナリシナリ千五百五十六年ニ發布セラレタル西班牙ノ保險條例中ニハ船舶上ノ家畜ニ關

スル特別ノ規定アリ海上保險ノ範圍ニ屬スヘキモノナリト雖トモ又家畜ヲ保護スルノ精神ヨリ出タルナリ然レトモ真正ナル保險事業ノ形態ヲ以テ之カ起リタルハ十八世紀ノ初頃ニシテ倫敦ニ於テ馬匹ノ死亡盜難及ヒ不具ニ對スル保險ヲ行フノ會社設立セラレタリト雖トモ幾モナクシテ廢業シ以後設立セラレタル同種ノモノニシテ今日其業務ヲ繼續セルモノ少カラサルモ而モ中途ニシテ挫折シタルモノ亦多シ是レ專ラ此事業ノ組織及ヒ經營ノ困難尋常ナラサルニ因ルナリ

獨逸ハ保險公立主義ノ國家トシテ諸聯邦ニ於テ國立家畜保險事業竝ニ地方的公共家畜保險組合ノ盛ナルト同時ニ民業會社ノ設立ヲ見ルコト少カラス皆相應ノ成績ヲ收メ得ルカ如シ然レトモ家畜保險モ亦疾病保險ノ如ク危険ノ計算頗ル困難ニシテ先ツ家畜ノ死亡疾病ニ關スル統計ヲ得ルコト難キ爲メ正確ナル保險料ヲ發見スルコト容易ナラス加之獸疫ノ發生ハ迅速ニシテ其流行急激ナルカ爲メニ屢有望ニ成立セル事業ヲシテ不意ニ倒産スルノ止

ムヲ得サルニ至ラシメ其他獸醫ノ缺乏詐欺ノ防禦法危險ノ監視等ニ關スル夥多ノ困難ヨリシテ大企畫ナル中央集權的營利事業ハ殆ント成立ノ望ナク寧ロ相互組織ニ依リテ地方地方ノ自治的經營ヲ行ハシメ之ヲ統轄シテ危險ノ分布ト經濟ノ共通ヲ掌ル所ノ中央機關ヲ備フルノ方法ヲ採ルヲ以テ最適當ナル處置ナリトス

本邦ニ於テモ明治二十六七年地方保險熱ノ時代ニ數箇ノ小保險會社ノ設立ヲ見タリ例ヘハ二十六年十一月愛媛縣ニ牛馬組合同盟合資會社二十七年二月大阪ニ家畜生命保險合資會社アリシカ如シ然レトモ皆幾モナクシテ廢業シ三十一年ノ頃東北地方ノ有力者カ稍完全ニシテ規模ノ大ナル家畜保險株式會社ヲ起サントセシモ中止シ三十四年ノ頃ニ東京ニ於テ同種ノ會社ヲ創立セント欲シ既ニ主務官廳ニ對シテ認可ヲ申請セシモ尙早、理由ヲ以テシテカ却下セラレタリ而シテ一方日進ノ產業ハ益此保險ノ必要ヲ促シ來リ頃者又之ヲ發起スル者二三アリト云ヘリ農民ノ重要ナル財産ヲ保護シ健全ナ

ル國民ノ養成ニ必要ナル乳牛食牛豚羊ノ繁殖ヲ得軍事輸送ニ必要ナル馬匹ノ改善發達ヲ圖リ並ニ是等ヲ原料トスル所ノ獸皮被服地等ノ利用ヲ盛ニセサルヘカラサル我國ノ將來ハ決シテ家畜保險ノ問題ヲ等閑ニ付スヘカラス弊害多キ競馬事業ヲ公許獎勵シ之ニ保護ヲ加フルカ如キ極端ナル手段ヲ執リテマテ馬匹ノ改良ニ熱心ナルノ爲政者何ソ靜ニ願ミテ此穩健ナル家畜保險ノ施設ニ想到セサルヤ

家畜保險ノ必要夫レ此ノ如シ然レトモ家畜保險ハ多クノ保險ノ種類中經營ノ至難ナル部類ニ屬スルモノニシテ其計畫ト運用ニ就テハ保險業務上ノ技能ヲ傾倒シ家畜ニ關スル知識ヲ曲盡スルニ非サレハ容易ニ成功ノ端緒ヲ開キ得ルモノニ非ス殊ニ中央集權的ノ大計畫ナル營利事業ヲ營ムニ當リテハ數回ノ失敗ヲ經サルモノ殆ント稀ナリ是レ前述ノ如ク家畜保險ニ在リテハ自然ノ危險カ變化常ナラスシテ捕捉シ難キト人意ノ選擇ト危險カ其勢力ヲ逞ウスルコト最著シキカ故ニシテ次ニ少シク是等ノ事情ニ論及セン

家畜保險ニ於テ引受クル所ノ危険ノ種類ハ何ナリヤト問フニ先ツ其最重要ナルモノハ家畜ノ死亡ニ對スルモノニシテ獨逸ニ於テハ之ニ對シテ家畜生命保險 (Viehlebensversicherung) ノ名アリ而シテ死亡ノ原因ニ就テハ凡テノ疾病及ヒ傷害ヲ包含スルコト人類ノ生命保險ニ於ケルト同一ナリト雖トモ特ニ獸疫ノ爲メニ生スル死亡ヲ保險スル場合ニ獸疫保險 (Seuchenversicherung) ノ稱アリ又傳染病防禦ノ手段トシテ屠殺ヲ命セラレ人カヲ以テ死亡ヲ惹起スル場合モ保險者ノ引受クル所タリ此外特ニ競馬競走中ノ斃死ニ對スル競馬保險 (Reinversicherung) 放牧中ノ死亡ニ對スル放牧保險 (Weideversicherung) アリ死亡以外ノ危険ヲ保險スル場合亦甚少カラス即チ家畜傷害保險 (Viehunfallversicherung) 家畜手術保險 (Vieroperationenversicherung) 家畜運送保險 (Viehtransportversicherung) 家畜火災保險 (Viehfuerversicherung) 並ニ屠畜保險 (Schlachttviehverversicherung) 等アリ此内稍説明ヲ要スル手術保險トハ主トシテ去勢術ヲ施スエ方リテ其不結果ノ場合ヲ保險スルモノニシテ屠畜保險トハ食料ノ爲メニ屠殺シ

タル家畜カ検査ノ際不合格ニ屬シテ之カ爲メニ損害ヲ被ル場合ヲ保險セシムルモノナリ
 此外尙二三ノ特種ナル危険ニ關スルモノアルモ要スルニ家畜保險ニ於ケル危険ノ種類ハ全ク異色ヲ有シ其統計ノ困難ナルハ固ヨリ此困難ト闘ヒテ得タル所ノ統計モ實際ノ結果トハ非常ナル懸隔ヲ生シ保險者カ豫想以外ノ損害ニ遭遇スルコト少カラス斯ノ如クナルノ原因ハ主トシテ獸疫ノ襲來カ至テ不規則且猛烈ナルニ在リ歐米ニ於テモ特ニ之ヲ保險セサル會社アル程ナレトモ又各地方ニ特別ナル事情ハ其地方人民ノ保險思想ヲ侮ルヘカラサル程度ニ向上セシメ最危険多キ地方カ最高キ危険ニ就テ契約ヲ締結シ會社ハ之カ爲メニ危険ノ分布ト平均ヲ失ヒ常ニ豫定以上ノ危険發生ニ接スルノミナラス時ニハ又一時ニ巨大ナル損害ニ會スルニ出ツルナリ
 次ニ被保險者ノ人意的危険カ其勢力ヲ逞ウスル事實ニ就テ言ハンカ第一家畜ノ價格ハ其評價頗ル困難ナルト同時ニ其變動特ニ下落甚シキモノニシテ

契約ハ兎角超過保險ノ状態ニ存在スルノ恐アリ多クノ會社ハ此危險ヲ免レ
 ンカ爲メニ所謂共同保險約款ヲ設定シ損害填補ハ常ニ保險價額ノ百分ノ七
 十五ニ就テ行ハルル旨ヲ規定セルモ尙其效果ノ至ラサル所アルナルヘシ第
 二家畜ニ對スル故意ノ虐使迫害ハ最容易ニ行ハレ保險金ヲ得ント欲スルニ
 急ナル被保險者ハ往往ニシテ其家畜ヲ死ニ至ラシムルアリ人命ヲ傷ケ家屋
 ヲ燒クカ如キ殘忍ナル所業ヲ敢テセサル者モ自己ノ飼養セル動物ヲ屠ルニ
 必シモ躊躇セサルナリ第三當該家畜ノ鑑別困難ナルカ爲メニ所謂換玉ノ患
 アリテ之カ爲メニ被保險者ノ被ル所ノ損害少カラサルヘシ
 我國ニ於テハ家畜ノ種類頭數飼養ノ状態需肉ノ盛否總テ歐米諸國ト著大ナ
 ル軒輊アルヲ以テ外國ニ於ケル此保險ノ評論ヲ直チニ我國ニ於ケル斯業ノ
 難易ニ及スコト能ハサルヘシト雖トモ之ヲ生命火災海上若クハ傷害ノ保險
 等ト同一ノ思想ヲ以テ了解處理セントスルハ誤レルノ極ニシテ先ツ財團ノ
 擔保力ニ於テハ國家ノ補助若クハ保證ヲ受ケ危險ノ監視ニハ警察權ノ幫助

ヲ籍リ各地方ノ畜產會產馬組合等ヲ以テ事業ノ分岐タラシメ引受クル所ノ
 危險ヲ最安全ナル死亡ノ種類ニ限局シ保險約款ヲ完璧ニシ獸醫監査員等ノ
 人選ト使用ニ就テハ可及的費用ヲ吝マス保險料ヲ安全ニシテ利益分配若ク
 ハ保險料割戻ノ方法ヲ設ケ消極受動主義ヲ以テ徐ロニ事業ヲ進行セシメン
 カ大會社トシテ之ヲ經營スルルニ方リテ稍光明ヲ認ムルニ庶幾カルヘシ將
 又國家カ法令ヲ以テ各地方自治體ニ命シテ家畜組合(Veterinär-Verein)ヲ組織セシメ
 是ニ依リテ小規模ノ相互保險ヲ實行セシメ國家カ再保險者ノ地位ニ立チテ
 其存立ヲ確保スルノ最安全ニシテ適切ナルノ方法ニ至リテハ後ニ保險政策
 ヲ論スルニ際シテ詳説スルノ機アルヘシ要スルニ我國ノ如キ家畜並ニ保險
 ノ兩ナカテ未タ幼稚ナル處ニ在リテハ人民カ國家ノ助力ヲ埃タスシテ家畜
 保險ノ事業ヲ營ムハ聊勇氣ノ過多ナルヲ感セサルヲ得サルナリ(家畜保險ニ
 就テハ拙著保險論集附録及ヒ保險雜誌第一一二號乃至第一一八號所載拙稿
 家畜保險論アリ又津野獸醫學博士著家畜保險論ハ之ヲ專題トセル詳密ナル

著述ナルヲ以テ參照スヘシ

第八章 盜難保險

予ハ前七章ニ於テ生命火災海上ノ三大保險部門ノ外ニ在リテ是等ニ尋テ重要ナル保險ノ種類並ニ既ニ我國ニ於テ實行セラレル所ノモノヲ略說シタリシカ茲ニ又新ナル保險ノ種類即チ盜難保險ノ一斑ヲ説明シテ一タヒ筆ヲ擱カント欲ス泰西諸國ニ於テハ此外尙雜多ナル保險種類ノ實行セラレルコト第二編第五章第四節ニ列舉シタルカ如シト雖トモ社會ノ保險事業ヲ要請スル事情ト人民ノ保險ニ關スル思想ト知識並ニ國家ノ保險事業ニ蒞ム所ノ態度カ我國ニ比シテ相距ル遠キヲ以テ近キ未來ニ於テ是等ノ總テノ保險種類カ續續我國ニ其基礎ヲ置クニ至ルヘシトハ信スルヲ得ス例ハハ玻璃保險ノ如キハ高價ナル「ガラス」板ノ使用カ未タ一般ニ普及セサル爲メ水道保險ノ如キハ家屋ノ構造カ全然異ナレル爲メ賣先資力保險ハ興信事業ノ未タ完備セ

サル爲メ抵當保險債券減價保險差額取引保險ヲモ含ム等ハ銀行業務ノ發展セサル爲メ並ニ一般ニ保險ノ營業カ自由ナラサル爲メ國家力之ヲ獎勵セサル爲メ日本カ泰西ニ所謂保險國 (Versicherungsland) タルニハ尙幾多ノ時日ト變遷ヲ經サルヘカラス故ニ本書ノ如キ斯學ノ綱領ヲ記述スルモノニ在リテハ姑ク如上ノ稍不急ナル保險並ニ之ト班ヲ同ウスル所ノ幾多ノ種類ヲ省畧セサルヲ得ス而モ獨リ茲ニ盜難保險ヲ紹介セントスルハ奈何

盜難ハ所謂濱ノ眞砂ノ盡クルコトナク常ニ世人ノ恐ルル所ノ災害ニシテ之カ保險ノ施設ハ何人モ普ク希望スルコト言ヲ埃タス殊ニ近來諸都市ニ於ケル大店舖勸工場「デパートメント」等ノ著シキ發展ニ伴ヒ所謂萬引搔擾ヲ始トシ竊盜ノ害ニ遭フコト多キヲ加フルノ狀況ニシテ殊ニ公設展覽會博覽會等ノ企舉ニ際シテ途中並ニ陳列中ノ盜難ニ對スル保險無キニ於テハ出品者ノ不安ト損害鮮少ナラサルヘシ故ニ此般ノ危險ニ對スル救濟ノ措置ハ一般人民ノ福利ノ上ヨリスルモ國家市府ノ繁榮ノ點ヨリスルモ刻下最希望

スヘキコトニ屬シ之カ實行モ亦甚シク困難ニ非サルヲ以テ此保險ノ一斑ニ關スル説述ハ實用的ノ價值ヲ有スルモノト信セサルヲ得サルナリ

盜難保險ノ由來ハ頗ル遠クテ吾人ハ其起源ヲ古代ニ歸セシムルコトヲ得ヘシ是レ盜賊ノ横行ト殘害ハ寧ロ文化ノ幼稚ナル時代ニ於テ多大ナリシカ故ニシテ第一編ニ於テ記述シタル「ギルド」ノ目的中ニモ常ニ盜難ニ對スル救濟ヲ包含スルヲ見現ニ第十世紀ノ頃ニ存在シタリシ倫敦「ギルド」ハ組合員カ盜賊ノ爲メニ家畜若クハ奴隸ヲ奪取セラレタル場合ノ救濟手段トシテ設立セラレタルコト曩ニ揭ケタルカ如シ爾來保險類似ノ事業トシテハ歐洲諸國ニ於テ所在絶エス之カ小規模ナル發達ヲ見タリト雖トモ現今ノ保險事業ニ伍シテ獨立ノ形態ヲ備フルニ至リタルハ千八百六十年代ノ初期ニシテ倫敦ノ「ロイズ」組合ニ屬スル保險者カ之ヲ試ミタルヲ以テ其嚆矢トセサルヘカラス而シテ千八百六十五年ニ於テハ倫敦ニ於テ既ニ獨立セル會社ノ設立ヲ見ルニ至レリ「ゼー、エイチ、チレー」氏ノ發起シタル盜難保險會社ハ即チ之ナリ然

レトモ此事業カ眞ニ隆盛ノ氣運ニ向ヒタルハ千八百九十五年之カ獨逸ニ於テ開始セラレタル頃ニシテ同年柏林ノ「フイデス」會社「ハムブルヒ」ノ「トランシア」トランツセ「火災保險會社」等之ヲ試ムルニ至リテ以來續同業者發生シ多クハ火災運送傷害等ノ保險ト兼業シ現在其數已ニ二十會社ヲ超エ獨逸ハ盜難保險ノ領土ニ於テ最活動スルニ至レリ

埃太利ニ於テモ亦之ニ尋テ斯業ノ創始ヲ見即チ千八百九十八年一月維那ニ設立セラレタル第一埃國盜難保險株式會社ハ之ヲ專業トスルノ所ノモノニシテ尙良好ナル成績ヲ擧ケツツアリ我國ニ於テモ縱令之カ爲メニ獨立セル會社ヲ設立スルノ稍不安ナリトスルモ少クトモ基礎鞏固ニシテ信用アル火災海上保險會社カ副業トシテ之ヲ營ムニ於テハ充分成功ノ希望アリト信セサルヲ得サルナリ

盜難保險ニ於テ保險スル所ノ危險ノ種類ハ英國ニ在リテハ其性質ニ由リテ通常左ノ三種ニ區別セラレ

(一) 竊盜 (Larceny) 又偷盜トモ言フヘク主トシテ晝間監視者ノ眼ヲ偷ミテ財物ヲ竊取スルヲ云フ

(二) 夜盜 (Burglary) 夜間器械又ハ暴力ヲ以テ屋内ニ忍入り財物ヲ盜取スルヲ云フ

(三) 強盜 (Housebreaking) 暴力又ハ器械ヲ用ヒテ戸締ヲ破リ以テ屋内ニ忍入ルハ前者ト異ナラサルモ必シモ夜間ニ限ラス晝夜ヲ問ハサル廣義ノ惡行ヲ指スナリ

是等文字ノ解釋ハ勿論保險約款ヲ以テ之ヲ明瞭ニシ竊盜ノ内ニハ家内ノ犯罪即チ僕婢ノ竊取ヲモ包含セシムルヲ通常トス而シテ相互ノ契約ヲ以テ夜盜強盜ノ危險ノミヲ引受ケ又ハ竊盜ノ保險ヲモ併セテ行フカ如キ或ハ會場内ニ在リテ納箱ナシニ陳列セラルル小貨物ニ對シテハ保險者カ竊盜ノ損害ヲ填補スル責ニ任セサルカ如キ差違ハ總テ保險者ノ方針ニ問ハサルヘカラス

獨塊ニ於ケル盜難危險ノ區別ハ稍前記ト趣ヲ異ニシ普通ノ竊盜 (gewöhnlicher Diebstahl) ニ對スル保險ハ獨リ自轉車ノ喪失ニ限リテ一部ヲ形成セシメ一般ノ財物ニ就テハ重盜 (schwerer Diebstahl) ノ危保ヲ負擔スルコトトセリ重盜トハ夜盜強盜並ニ合鍵ヲ以テセラレタル盜難ヲ包括スルモノトス次ニ盜難保險會社ノ引受クル所ノ保險ノ目的及ヒ之ヲ貯藏スル建物其他ニ就テ言フトキハ前記獨塊盜難保險會社ハ之ヲ左ノ六種ニ分テリ

- (一) 家財 住家内ニ存在スル所ノ諸般ノ財貨ヲ包含スルモノニシテ例ハ第一一什器衣類敷布布團敷物窓懸壁懸書籍玻璃陶磁器繪畫彫刻其他一切ノ器具第二貴金屬珠玉類第三現金第四有價證券及ヒ小切手帳通帳等トス
- (二) 寶石及ヒ時計類ヲ製造又ハ販賣スル店舗ノ商品現金有價證券通帳等
- (三) 其他ノ店舗内ニ在ル商品其穴藏ニ在ル商品其他
- (四) 銀行貯蓄銀行兩替店其他ノ現金有價證券小切手帳通帳等
- (五) 質舖ノ質物

(六) 寺院會堂ノ金銀寶玉美術品等

斯ノ如ク目的ノ分類ヲ爲スハ主トシテ之ニ依リテ保險料ノ階級ヲ別タシト欲スルニ在リ先ツ住宅ニ就テハ之カ軒ヲ並ヘタル市街地ニ在ルト孤立シテ村落ニ在ルトノ差違ヲ設ケ又現金有價證券寶玉類ニ就テハ之カ堅牢ナル金庫中ニ藏セラルルト然ラサルトノ區別ヲ立テ保險料額ハ一箇年千分ノ一ヨリ千分ノ十二至ル階段ヲ設ケタリ而シテ財貨ノ性質ニ依リテ危險ノ程度ヲ參酌スヘキハ當然ニシテ例ヘハ家具類ハ低ク寶石類ハ高キカ如ク又家屋店舖ノ構造戸締ノ如何被保險者ノ人意的危險監視力ノ多少等ヲ考察セサルヘカラサル等當然ノ事項ナルヲ以テ茲ニ喋々セス而シテ保險期間ハ一箇年ト定メテ之ヨリ短期ノ契約ヲ締結セスト雖トモ英國ニ於テ「ロイヅ」ノ行フ盜難保險ノ如キハ頗ル自由ニシテ甲地ヨリ乙地ニ送致セララルル間又ハ短期間倉庫内ニ保管セララルル間ニ就テモ貨物ノ盜難危險ヲ行ヒ殊ニ博覽會開催ノ如キ機會ニ際シテハ遠國ヨリ送致セララルル所ノ出品貨物ニ就テ運送中ハ勿論

開期中若クハ送還マテノ間ノ盜難危險ヲ引受ケ加フルニ多クノ種類ノ保險ヲ兼營スルカ爲メニ海上火災運送並ニ個人若クハ傭者責任ノ保險マテモ之ヲ引受ケテ遺憾ナカラシム我國ニ於テモ數年ナラスシテ世界的大博覽會ヲ開催セントスト云フモ之ニ對スル保險的施設ニシテ伴ハサランカ徒ニ外人ノ嘲笑ヲ買ハンノミ盜難保險ノ計畫ニ就テハ又此般ノ事情ヲ考慮スルヲ要ス

盜難保險ハ損害保險ニシテ火災保險及ヒ運送保險ト近似ニシテ密接ナル關係ヲ有スルヲ以テ舊ニ其契約上ノ法律關係ニ於ケルノミナラス其實行ニ於テモ火災運送保險等ノ原則ト慣習ヲ推及ホシ又危險ノ測定及ヒ保險價額ノ決定ニ際シテ互ニ利便ヲ供スルコトヲ得ヘシ故ニ盜難保險ニ關スル契約條項ノ要領ニ至テハ今其説明ヲ省略ス

盜難保險ノ實行ニ就テ世人ノ最先ニ疑問トスル所ハ之カ保險料ノ根據タル統計基礎ノ得ラルヘキヤ否ヤニアリ然レトモ是レ寧ロ容易ノ業ニシテ盜難

ハ何人モ皆直チニ之ヲ警察署ニ訴フルカ故ニ當該官衙ニ就テ之カ調査ヲ行ハハ例ヘハ東京市内ニ於テ一箇年幾件ノ被害アリシヤヲ知ルヲ得ルカ故ニ之ヲ十五區ニ別チテ各區ノ戸數ニ割當ツレハ毎戸ノ平均危險率ヲ得尙一區ヲ數多ノ小部分ニ別チテ各部分毎ノ差等アル危險率ヲ見ルコトヲ得或ハ職業ノ區別ニ依リテ被害件數ヲ知ルコトヲ得ナハ更ニ容易ニ危險ノ割合ヲ知ルヲ得ヘク例ヘハ東京市内ニ幾何ノ銀行アリテ幾件ノ被害アリシヤ幾何ノ時計寶石商アリ幾何ノ呉服商アリ幾何ノ小間物商アリテ各幾件ノ被害アリシヤヲ見レハ各職業ノ危險率ヲ知ルヲ得ヘシ而シテ次ニ一件ノ被害カ金額ニ見積リテ平均幾何ナルヤヲ知ルヲ得而シテ盜賊ハ決シテ吾人ノ財物ノ全部ヲ奪取スル者ニ非スシテ通常其小部分ヲ偷去ルモノナルカ故ニ假ニ之ヲ十分ノ一ト見做セハ全財産額ノ假定數ヲ作ルコトヲ得之ト已ニ知ラレタル危險率トニ據リテ純保險料率ヲ算出スルコトヲ得之ニ費用ノ見積ヲ加ヘテ表定保險料ヲ決定スルヲ得ヘキナリ然レトモ此ノ如キハ固ヨリ生命保險ニ

於ケルカ如キ精確ナル保險料ノ根據ヲ吾人ニ提供スルモノニ非ス事業上ノ實驗ニ依リテ漸々正確ニ近クマテハ未タ冒險ノ範圍ヲ脱スル能ハスト雖トモ盜難ノ危險ハ獸疫ノ如ク又火災ノ如ク大舉シテ保險者ヲ襲撃スルモノニ非サルヲ以テ相當ナル資金ノ準備ヲ以テセハ一敗地ニ塗ルルカ如キ運命ニ陷ルコト無カルヘキナリ

盜難ノ性質上記ノ如クニシテ其損害カ吾人ノ財産全部ニ及フコト殆ント無キヲ以テ被保險者ハ其財産ノ價額ノ全部ヲ保險ニ付シテ之ニ對スル保險料ヲ支拂フヲ好マサルノ現象ニ接スヘシ是ニ於テカ保險者ハ特ニ住宅内ノ財産ニ就テ此事情ヲ考慮シ第一危險ノ契約 (Premier-risque Versicherung) ヲ許シ一部保險ニシテ而モ實際發生シタル損害額ヲ普通保險契約ノ原則ニ依ル比例填補ト爲サスシテ保險金額ヲ限度トシテ全部支拂フ旨ノ契約ヲ締結スルコトトセリ此ノ如キ場合ニ於ケル保險料ハ普通ノ場合ト同一ナルヘカラサルハ當然ニシテ算出ノ方式ヲ異ニセサルヘカラサルハ上述セル所ヲ以テ推知

スルヲ得ヘシ而シテ此條件ヲ以テ一部保險ヲ許スト雖トモ其割合ヲ甚シク低カラシムルトキハ保險料率ヲシテ甚シク高カラシメサルヘカラサルヲ以テ通常保險金額カ保險價額ノ百分ノ四十ヲ下ルヲ得ストセリ此種ノ契約方法ハ信用保險ニ於テモ常ニ見ル所タリ

盜難保險ノ實行ニ就テ世人ノ第二ニ憂フル所ハ詐欺的行爲ノ頻出セントスルノ恐ナリ即チ盜賊ノ入りタルヲ粧ヒ又ハ故意ニ他人ヲシテ財貨ヲ偷ミ去ラシメ或ハ損害ノ見積ヲ過大ニシテ不當ノ填補額ヲ請求スルカ如キ被保險者ノ奸惡ノ爲メニ被保險者ノ被ルヘキ損害豫想ヲ外レテ甚大ナルヘシト云フニアリ是レ道理アル懸念ニシテ實際決シテ無シト謂フヘカラサルヘシト雖トモ被保險者ハ保險者ヘ填補ノ請求ヲ爲スト同時ニ官衙ニ對シテ盜難届ヲ提出セサルヘカラサルヲ以テ會社ニ對シテ詐欺ヲ行ハント欲セハ同時ニ官衙ヲ欺罔セサルヘカラス是レ免ルヘカラサル危險行爲ニシテ官廳ヲ欺クノ罪ト詐欺取財ノ罪ハ眼前ニ横ヘレリ將又被害ノ金額ヲ虛證スルコトハ契約

當時ノ嚴正ナル評價ニ依リテ防クヲ得ヘク要スルニ此種ノ人意的危險ハ世人ノ想像スル如ク多大ナラサルヘシ然レトモ保險者ハ極力超過保險ノ弊害ニ陷ルヲ避ケテ損害防止ノ緩漫ニ流ルルヲ防クハ獨リ自家ノ利益ヲ保護スルノ道タルノミナラス國家社會ニ對スル其責務ナリ

第四編 政策論

第一章 保險政策ノ意義

保險制度ノ直接ノ目的カ天然人爲ノ災害ニ遭遇シタル不幸者ノ經濟的救濟ニ存シ間接ニハ管ニ其結果トシテ國家社會ニ不幸者ノ落魄ヲ減少セシムルノミナラス國民ノ知識ヲ向上セシメ德義ノ心性ヲ涵養シ進取ノ氣象ヲ發揮セシメ貯蓄ト勤勉ヲ獎勵シ社會ニ巨大ナル資本ヲ供シ社會ノ信用制度ヲ發達セシメ貧富ノ懸隔ヲ調和シ又社會ニ於ケル災害發生ノ防止ニ資スル等ノ偉大ナル效果ヲ有スルモノタルハ第二編ノ終ニ於テ縷説シタルカ如シ今日文明ノ邦國ニ於ケル政治家ハ皆此制度ノ偉大ナル效用ヲ認識シ之カ興廢ハ人民ノ幸福ニ影響スルコト甚大ニシテ之カ隆替ハ國家ノ繁榮ト離ルヘカラサル關係ヲ有スルモノタルヲ看破セルヲ以テ此制度ノ施設ト活動ヲ人民ノ自由ニ放任セス國家ノ權力ヲ以テ之カ助長ト監督ノ方法ヲ施セル保險政策

ハ即チ此監督助長ノ程度ト手段方法竝ニ形式ヲ研究シ其弊害ヲ阻止シ其利益ヲ發揚シテ究極如何ニセハ最善ク人民總體ノ利益ト國家ノ福祉ヲ増進スルニ足ルヤヲ講スル所ノ學問ニシテ從來特ニ獨逸經濟學者ニ依リテ商業政策交通政策社會政策等ト相竝ヒテ應用經濟學中ノ經濟政策論ニ屬セシメラレタリト雖トモ本書ハ經濟學ノ立脚地ヨリ保險制度ニ對スル綜合的研究ヲ試ムルヲ目的トスルモノナルヲ以テ茲ニ一編ヲ設ケテ其梗概ヲ説示セント欲スルナリ

國家カ保險制度ニ對シテ採ルヘキ方針ニ自由主義ト強制主義ノ別アリ又公立主義ト私立主義ノ別アルコトハ曩ニ之ヲ述ヘタリ而シテ公立主義ニモ政府カ官僚組織ヲ以テ之ヲ行フト人民ノ自治體ヲシテ之ヲ行ハシムルノ別アリ官僚組織ニモ營利主義ト非營利主義アルヘク又保險ノ種類ニハ海上保險運送保險信用保險ノ如キ商賈的ノモノト火災保險生命保險病傷保險ノ如キ一般的ノモノトアリ而シテ是等ノ一般的保險ノ中ニモ例ヘハ工場製造原料

商品貨物ノ火災保險ノ如キ商賣的ノモノト住宅家具什器ノ保險ノ如キ社會的ノモノトアリ富者ノ利用スル生命保險ト貧者ノ爲メニ行ハルル生命保險トアリ傷害保險ニ就テモ職業傷害ノ保險ハ社會的性質ヲ有スルコト多シ是等ノ區別ヲ明ニシ其性質ニ由リテ國家ノ方策ヲ異ニスルハ即チ保險政策ノ問題ニシテ之ヲ綿密ニ研究スルトキハ紛糾錯綜容易ニ解決スヘカラス假ニ快刀ヲ揮ツテ其亂麻ヲ兩斷セハ即チ長短大小ノ無數ナル絲片ハ又拾收スル能ハサルニ至ラン故ニ予ハ只其大綱ヲ捉ヘテ一般方策ノ準則ヲ説カント欲スルノミ直チニ之ヲ以テ現實ナル社會狀態ニ應用スルヲ得サルハ無論ナリ

第二章 國家ノ保險其者ニ對シテ

執ルヘキ行動

第一節 利益増進ノ方策

保險ノ實行カ國利民福ノ増進ニ對スル重要ナル勢力タルヲ認識スル以上ハ

國家ノ之カ普及ト繁榮ヲ圖ルカ爲メニ畫策スル所無カラサルヘカラス而シテ其方策ハ國民ノ知識教育及ヒ財力ノ程度ニ應シ又其實行ト普及ヲ盛ナラシメント欲スル所ノ保險ノ種類ニ由リテ異ナラサルヘカラスト雖トモ大體ニ於テ之ヲ三段ニ分クサルヘカラス

第一 自由放任

保險ノ需要ヲ全ク人民ノ自然ナル發生ニ委スルモノニシテ人民カ衣食住ノ諸關係ヲ以テ生活ノ必需トスルカ如ク自ラ諸種ノ保險ヲ人生ノ必需トシテ之カ實行ノ方法ヲ發見スルニ勉ムルカ如キ例ヘハ英國國民ノ如キニ對シテハ此方針モ亦可ナルヘシト雖トモ國家カ常ニ人民ノ先導ヲ爲シテ之ニ善事ヲ教エサルヘカラサル如キ社會ニ在リテハ漫ニ自由放任ヲ唱フヘカラス

第二 獎勵保護

先ツ一般ニ保險思想ヲ普及セシムル手段トシテハ保險ノ教育ヲ盛ニシ之

カ専門的教課ハ勿論普通教育ニ於テモ能フ限リ此思想ヲ涵養スルノ方法ヲ採リ例ヘハ國定教科書中ニ倫理的經濟的商業的數學的方面ニ關スル保險ノ題目ヲ掲ケテ之ヲ説明スルカ如キハ根本的ノ獎勵法ナリ又法律ヲ制定シテ各人ノ保險料ニ充ツヘキ金額ヲ課税ノ標準額ヨリ控除スルヲ許シ遺族ノ利益ヲ保護スル爲メニ被保險者ノ債權者ニ保險金ノ差押ヲ禁スルカ如キモ有力ナル獎勵ノ道ニシテ又國家カ此事業ノ建設ヲ促ス爲メニ保護金ヲ與ヘ其信用ヲ確保スル爲メニ政府カ保證ヲ行フカ如キハ既ニ航海拓植等ノ事業ニ於テ其實例比比タリ現ニ明治十二年ニ創立セラレタル我東京海上保險會社ハ當初政府ノ保證ヲ得タリシナリ我國ノ現況ニ在リテハ少クトモ此程度ノ國家的施設ハ爭フヘカラサル必要ヲ見ルニモ拘ハラス爲政者ハ毫モ之ニ著目セサルナリ勿論曩ニ救濟組合ノ條下ニ述ヘタル如ク政府ノ營利的作業例ヘハ鐵道院專賣局等ニ於テ其使用人ノ傷害死亡及ヒ養老ノ保險的救濟ヲ行ヒ之ニ政府ノ補助金ヲ附與スルカ如キ局部的

ノ行動アリト雖トモ是レ固ヨリ保險ノ一般普及ニ著眼シタルニ非スシテ自家ノ職工ヲ保護スルノ動機ニ出タルモノナルヲ以テ姑ク之ヲ別種ノ問題トセサルヘカラス

第三 強制

強制主義ノ道理アルコトハ曩ニ其處ニ於テ之ヲ論シタルヲ以テ茲ニ再言セスト雖トモ如何ナル種類ノ保險ヲモ又如何ナル人民ノ階級ニ對シテモ強制ノ必要アリトハ決シテ主張セラルヘキニ非ス先ツ其保險ノ種類ニ就テ言ヘハ強制ハ社會的竝ニ國家的保險ノ範圍ニ限ルヘキモノニシテ社會的保險トハ前ニ説明シタルカ如ク資本家ニ對スル勞力社會ニ直接利益ヲ與フル所ノ保險ノ種類ニシテ例ヘハ勞働者ノ職業傷害死亡疾病癈疾老年等ヲ保險シ其衣服調度ノ如キ生活必需品ヲ火災ニ對シテ保險スルカ如キヲ謂ヒ國家的保險トハ國家ノ生存繁榮ニ直接重要ナル財產及ヒ產業ヲ保護スルノ目的ニ出ツルモノニシテ例ヘハ家畜保險農產物ノ收穫保險(雹害

保險ノ如シ又ハ都府ノ要素タル公私ノ建物住宅ノ火災保險ノ如キ即チ之ナリ商賈的ノ保險ハ利益ニ敏キ商賈竝ニ資本家ニ關スルカ故ニ強制セストモ自ラ保險ヲ利用スヘク又富者モ之ト同シク縱令保險ヲ利用セストモ自力ニ依リテ災害ニ對抗スルヲ得ルヲ以テ之ヲ目的トスル保險ハ強制ノ必要ナシト言ハサルヘカラス生命保險ノ如キモ中流以上ノ人士ニ利用セラルル大額ナル生命保險ハ強制ノ必要ナク中流以下ノ人民就中勞働社會ニ適應スル所謂簡便生命保險ノ如キハ時トシテ強制ノ必要ヲ見ルナリ保險ノ強制ヲ受クヘキ社會階級ノ種類ハ上記ノ事項ヨリシテ之ヲ推知スルニ難カラサルヘク即チ知識ノ程度低ク財力又充分ナラスシテ放任ハ固ヨリ緩漫ナル獎勵ノ手段ヲ以テハ未タ之ヲ保險ノ利用ニ向ハシムル能ハサルカ如キ階級ニ限ルモノトス勞働社會ハ即チ之ニシテ獨逸ノ公的疾疾病害老年廢疾保險ハ一箇年ノ俸給收入二千馬克ヲ以テ限界トシ其以下ノ社會ニ之ヲ強制スルコトトセルナリ

強制ハ生活ノ最少限度ニ就テ行ハレサルヘカラサルハ無論ニシテ如何ニ保險カ人民ニ必要ナリトテ其必須ノ程度以上ニ之ヲ強制シ其資力ニ相應セサル負擔ヲ爲サシムルハ不當ナリ勞働保險ニ於テ通常收入額ヲ標準トシ其百分ノ三ヲ超過スル保險料ヲ強制スルヲ許ササルカ如キハ此趣旨ヨリ出ツルナリ

第二節 弊害防止ノ方策

保險制度ニハ偉大ナル效用アルト同時ニ又之ニ隨伴スル弊害尠カラズ國家カ極力之ヲ防止セサルトキハ保險ハ其害ヲ逞ウシテ却テ國家社會ヲ賊スルニ至ルコト屢ニ説述シタルカ如シ而シテ保險者ノ方面ニ發生スル害惡ヲ防止スルノ方策ハ即チ民業保險ニ對スル國家ノ監督ニ屬スル問題ナルカ故ニ別ニ之ヲ論スルコトトシ茲ニハ專ラ被保險者ノ方面ニ發生スル害惡ニ對スル方策ニ就テ説カント欲ス

被保險者カ不正手段ヲ以テ保險ノ利益ヲ獲取セント欲スル罪惡ニ對シテハ先ツ私法ノ關係上ヨリシテ其契約ヲ無効トシ或ハ保險金ノ請求權ヲ排却スルノ道アリ又明ニ之カ詐欺ノ意思ニ出テ或ハ社會ノ安寧秩序ヲ傷クルノ行動ニ走ルトキハ普通刑法上ノ制裁アリト雖トモ之ヲ以テシテハ未タ斯制度ノ特有ナル弊害ヲ防クコト能ハス是ニ於テカ特別ナル刑罰的制裁竝ニ警察的監督ノ必要ヲ生スルナリ然レトモ我國ノ如キハ最之ヲ閑却シ法律家モ政治家モ被保險者ハ皆善人ニシテ保險業者ノミ獨リ惡人ナリト思惟スル傾向アルカ如シ何ソ思ハサルノ甚シキヤ生命保險ニ於テ既往症ヲ隱蔽シテ加入スル如キハ滔滔タル天下皆然ルノ趣アリ火災保險ニ於テ罹災ヲ免レタル財產ヲ隱匿シテ之カ填補ヲ求ムル者亦然リ是等ハ詐欺ノ行爲ニ非スヤ況ンヤ放火シテ保險金ヲ獲ント欲スル者往往之ナキニ非サルヲヤ泰西諸國ニ於テハ多クハ刑法中保險行爲ニ附隨セル犯罪ニ對シテ特別ナル規定ヲ設ケタリ例ヘハ獨逸刑法ハ第二百六十五條ニ於テ被保險物ニ放火シ

災ニ關スル延燒危險ノ甚シキ我國ノ如キニアリテハ特ニ考究ズヘキ問題ナリトス

第三章 國立保險

第一節 保險國立ノ趨嚮

國家カ保險事業ノ經營ヲ全ク人民ノ手ニ委スヘキヤ將又自ラ進ンテ之ヲ其手ニ收ムヘキヤハ保險政策中ノ最解決シ難キ問題ニシテ殊ニ之カ往往世間ノ囂囂タル官業民業論ノ渦中ニ投セラレ冷靜ナル真理ノ探窮ト國家民衆ノ利益ヨリハ寧ロ個人ノ利害政治上ノ關係等ヲ本位トスル感情論ニ走ルノ虞多キ危險ナル問題ナリ然レトモ保險事業カ國家的社會的性質ヲ有スルテフ根據ヨリシテ之ヲ全然民業ニ委ネスシテ國家機關ノ作用ニ依リテ實行スル所アルヘシトノ議論ト計畫ハ常ニ識見アル學者ト勇氣アル政治家ニ依リテ提唱セラレツツアリ近代保險官營ノ嚆矢ハ蓋シ千八百六十四年英國ニ於テ

「グラッドストーン」氏ノ主唱ニ依リテ創始セラレタル郵便局營保險ナルヘク近時露國カ著著官業主義ヲ實行セント欲スルハ蓋シ其國權主義ト專制ノ思想ヨリ來リシナルヘク濠洲ノ英國殖民地「ニュージールランド」カ生命火災其他ノ保險ヲ國營ニセント欲スルハ蓋シ共和ノ思想ヨリ來レル國家社會主義ノ發現ナラン而シテ國家社會主義ノ本據タル獨逸竝ニ之カ系統ヲ傳ヘタル塊甸瑞西丁抹等ノ邦國ニ於テ公共保險主義カ多大ナル勢力ヲ有スルコト固ヨリ怪シムニ足ラス加之最近北米合衆國ニ於テスラ國立保險ヲ主張スル者發生スルニ至リ大統領候補者「ブライアン」氏モ其一人タルカ如キハ注目スヘキ現象ニシテ以テ公共保險ノ主義カ世界ノ各部ニ磅礴トシテ浮動セルヲ知ルヲ得ヘキナリ

我國ノ保險事業ハ曩ニ其沿革ヲ攷スルニ當リテ明ニシタルカ如ク創業ノ始ヨリ全ク民間有志者ノ發起ト經營ニ成リ多大ノ困難ヲ排シ數回ノ失敗ヲ重ネ途ニ今日ノ發達ヲ致シテ一般社會ノ認識ヲ得ルニ至リシモノニシテ斯業

又ハ被保險船舶ヲ沈沒セシメタル者ヲ十年以下ノ懲役ト百五十馬克以上六千馬克以下ノ罰金ニ處シ又文書偽造ニ關スル罪ノ中ニ醫師カ保險會社ニ對シ虛偽ノ診查報狀ヲ作りタル場合及ヒ保險契約者カ之ヲ提出シタル場合ニ對シテ二年以下ノ禁錮ヲ擬セルカ如キ匈牙利露西亞北米加州及ヒ新育克州ニ於テ更ニ一步ヲ進メタルカ如キアリト雖トモ學者ハ皆未タ之ニ満足セサルカ如シ我國ニ於テハ改正刑法第百十五條ニ自己ノ所有ニ係ル物件ト雖トモ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シキ旨ヲ規定シ即チ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處スルコトトセルハ聊吾人ノ意ヲ強クスル所ナリト雖トモ未タ他ニ何等ノ規定ヲ見サルヲ遺憾トス

保險ニ關スル罪惡中最恐ルヘキハ被保險物破壞ノ罪ナルヲ以テ之ニ對シテ前記ノ制裁アルモ事後ノ制裁ヨリモ之ヲ豫防スルニ有力ナル規定ヲ設クルノ必要アリ即チ超過保險ヲ禁止シ且之ヲ處罰スルコトニシテ此種ノ罪惡、

殆ント超過保險ノ締結ヨリ來ルト言ハサルヘカラスナルナリ超過保險ノ超過分カ無効ナルコトハ保險法ノ原則トシテ普ク認メラルル所ニシテ我商法ニモ第三百八十六條ニ其規定アリ又同第三百九十四條ニ當事者カ保險價額ヲ定メタル場合ト雖トモ事故發生ノ際保險者カ著シク其過當ナルコトヲ證明シタルトキハ填補額ノ減少ヲ請求スルコトヲ得ル旨規定セルモ共ニ被保險者ノ惡意ヲ防クノ效アルヘク又保險者カ共同保險約款ヲ設定シ獨逸諸聯邦ノ公共火災保險ニ於テ保險金額ハ査定員^{イニスペクトル}ノ評價額ノ三分ノ二ヲ限度トスル旨ヲ定メタルカ如キ共ニ此弊害ヲ阻止セントスルノ手段ナリ然レトモ主トシテ民業保險ニ於テ營業者就中其社員代理人等カ契約金額ノ増嵩ト保險料收入ノ多額ナルヲ望ムカ爲メニ自ラ進ンテ不慎重ナル行動ヲ敢テシ超過保險ノ契約ヲ結フコト少カラス故ニ超過保險ノ締結ニ對シテハ獨リ私法上ノ制裁ヲ以テ足レリトセス警察力ヲ以テ之ヲ監視シ刑法ニ依リテ當事者ヲ處罰スルノ必要アリ普國ノ法律ニハ超過保險ヲ罰スルノ規定アリト云ヘリ火

開拓ノ功績ハ全ク之ヲ人民ニ歸セサルヘカラス政府ハ此事業ノ生存繁榮ニ缺クヘカラサル監督ヲモ二十年ノ久シキニ亘リテ實行セス漸クニシテ其法制ト機關ヲ設定シタル後ト雖トモ十年ノ長キ間果シテ善ク斯業ノ監督ト人民保護ノ職務ヲ盡シ得タリシヤヲ疑ハサルヲ得ス此ノ如キ狀態ハ我國ノ政治家カ此制度ノ國民經濟ト社會ノ安寧ニ至大ナル影響ヲ與フル所以ヲ覺ラスシテ今ニ至ルマテ之カ監督助長ノ方策ニ力ヲ用ヒサル大だの不明ニ職由スルモノニシテ從テ保險國營ノ問題ノ如キハ彼等ノ夢想タニ爲ササリシ所ナリ勿論明治三十三年ノ初ニ當リ我遞信省ニ於テハ英國ノ先例ニ倣ヒ全國ニ於ケル郵便局ヲ利用シテ生命保險ノ事業ヲ開始セント欲セシコトアルモ一般政府部内ノ賛同ヲ得ル能ハスシテ息ミ又近頃大藏省ニ於テ是亦外國ニ倣ヒテ年金制度ノ實行ヲ企テタリト聞ケト是等ハ皆保險事業ニ依リテ國家人民ノ福利ヲ増進セント欲スルノ意志ヨリハ國民ノ財貨ヲ吸集シテ政府財政ノ運轉ニ資スル所アラシメントスルノ目的ニ傾ケルカ如シ而シテ民間當

業者モ斯業ノ創始者タリ其開拓者タルノ沿革ニ由リ恰モ保險事業ヲ以テ自家ノ獨占ナリト思惟スルカ如ク官營ノ論公立ノ企畫ニ對シテハ宛然伏兵ノ一齊射擊ノ如ク非難攻撃ノ彈丸ヲ雨下セシムルヲ常トセリ殊ニ近來ノ活劇ハ昨四十一年ノ帝國議會開會中代議士板倉中氏カ衆議院へ保險官營ノ建議案ヲ提出シタルニ始マリ其理由缺點多ク其調査粗笨ヲ極メタル上日本國內ニ於ケル總テノ種類ノ保險會社ヲ買收シテ政府ノ獨占事業ト爲スヘシト云フカ如キ古今未曾有ノ提案ナリシカ爲メニ保險會社ノ熱罵冷嘲ハ言フニ及ハス近年諸般官營事業ノ不成績ヲ慨スル一般人士モ亦多クハ之ニ反對シ遂ニ此建議案ハ調査委員會ニ於テ否決セラレタリ然レトモ國營保險ノ問題ハ是ヨリシテ漸ク人口ニ膾炙セラルルニ至ルヘク將來ニ於ケル保險政策ノ活問題ハ今ヤ著著トシテ潛勢力ヲ養ヒツツ吾人ノ前ニ横ハレリ著實ナル民業ハ吾人ノ最喜フ所ナリト雖トモ溫健ナル官公事業モ亦決シテ非難スヘキニ非ス要スルニ人民ノ利益ヲ保護増進スルニ就テ優レルヲ執ラサルヘカラサルナリ

ルナリ

第二節 國立保險ノ種類

一言ニ之ヲ國立保險ト云フモ其組織方法ニ由リテ之ニ幾多ノ種別アルヲ知ラサルヘカラス請フ次ニ之ヲ論セン

第一 國家カ保險事業ニ依リテ收利ヲ目的トスルヤ否ヤニ就テ之ヲ二種ニ別ツヲ得ヘシ官營ナル文字ハ蓋シ鐵道國有煙草專賣ノ如キ政府ノ營利事業ヲ表示スルモノニシテ收利ヲ目的トスル政府ノ保險事業アラハ宜シク官營保險ナル名稱ヲ用フヘシ又縱令直接收利ノ方法ヲ立テストモ之ニ依リテ人民ノ財貨ヲ吸收シ之ヲ以テ公債ヲ整理シ或ハ他ノ財政的補助ニ供セント欲スルナラハ是亦官營ト稱スルヲ得ヘシ此種ノ營利的官業ハ佛國ノ「トンチン」和蘭ノ年金ノ如キ舊世紀ノ亡國的財政施設ニ於テ之ヲ見ルヲ得ルノミニシテ現時國家財政ノ複綜汚濁ヲ去リテ簡潔ヲ貴ヒ收入ハ整整

タル租税ノ徴收ニ依リ負債ハ堂堂タル公債ノ募集ヲ以テ之ヲ整理スヘキ時代ニ於テ執ルヘキ政策ニアラス英國ノ郵便局營保險ハ其創始ノ主張ニ於テハ下等社會ニ對シ安價輕便ニシテ且安全ナル生命保險ヲ供給セントスルニ在リシト雖トモ其實際ノ組織ニ於テハ其收利ハ國庫ニ納マリ其財產ハ國債局ノ管理ニ屬スルヲ以テ所謂營利的官業ト評セサルヘカラス而モ幸カ不幸カ此保險ハ更ニ發達セスシテ政府ノ財政ニ寄與スル事實ナキヲ以テ却テ此點ニ關スル非難ヲ聞カサルノミ

收利竝ニ財政補助ノ目的ヲ有セサル國立ノ保險事業ハ縱令之カ保險其者ノ普及ト發達ヲ圖リ事業ノ鞏固ト加入者ノ利益ヲ保護スルヲ以テ直接ノ目的トヒス寧ロ保險制度ヲ手段トシテ人民ノ慰撫懷柔ヲ謀ルモノトスルモ吾人ノ非難スヘキ點ヲ見ス獨塊其他ノ邦國カ疾病傷害及ヒ老年廢疾ノ保險ヲ國立ニシ收利ノ目的ヲ夢想タニセス資本家ヲシテ保險ノ費用ヲ分擔セシメ國家モ亦補助金ヲ下シテ被保險者ノ利益ヲ増進セントスルカ如

キ政策ハ吾人ノ雙手ヲ擧ケテ贊セサルヘカラサル所ナリ

第二 國家カ全ク其官僚ニ依リテ保險ヲ經營セシムルヤ將又人民ヲシテ自治ヲ行ハシムルヤノ差違ニ由リテ二種ト爲スコトヲ得ヘシ例ヘハ英國ニ於テ郵便局員ヲシテ事務ヲ行ハシメ「ニュージブラント」政府カ保險廳 (Insurance Department) ト稱スル官衙ヲ設ケテ長官「アクチュアリー」ヲ始メトシ凡テノ吏員ヲ任命シ之ヲシテ事業ヲ行ハシムル如キハ前者ニシテ國家ハ只法律ト監督機關ヲ設定スルノミニシテ保險ノ實行ハ之ヲ職業組合又ハ地方行政體又ハ自治體ニ委ネテ其所屬人民ノ保險ヲ行ハシムル獨逸ノ國立疾病傷害保險及ヒ市立火災保險ノ如キハ即チ後者ニ屬スルモノトス

前者ニ對シテハ所謂官僚商賣ノ非難アリ保險事業ノ如キ被保險者ノ勸誘ヲ要スルハ勿論複雜ニシテ而モ敏活ヲ要スル事務ニシテ官吏ニ常套ナル倨傲尊大ト繁文縟令ノ弊ハ決シテ事業ノ繁榮ト人民ノ便益ヲ圖リ又其經費ノ節約ヲ得セシムル所以ニアラストノ非難ハ反對論者ノ常ニ口ニスル

所ナリ然レトモ此種ノ弊風ハ官吏ナル者ノ精神ト肉體ニマテ竄入セルモノナリヤ將又其衣冠ニ附著セルニ過キササルモノナルヤヲ尋ネサルヘカラス其統率及ヒ待遇ノ方法ヲ特種ニシ公衆ニ對シテ親切溫柔事務ニ就テ勤勉簡明ヲ旨トスルヲ訓ヘナハ必シモ官僚經營ノ全體ヲ非認セシムル底ノ不利益ナカルヘシ

第三 經營者ノ獨斷ヲ以テ保險事務ヲ處理スルト被保險者ノ自營ニ基キ若クハ其參加ヲ許ス所ノ相互主義ニ據ルトノ別ヲ以テ又之ヲ二種ト爲スコトヲ得「ニュージーランド」ニ在リテハ保險契約者ニ剩餘金ノ全部ヲ分配スル點ヲ以テ相互主義ニ基クト言フト雖トモ是レ非營利主義ト云フヲ得ヘキモ相互主義ニ非ス相互主義ハ加入者ノ參政權ヲ要素トシ單ニ利益ヲ分配スルノミナラハ株式保險會社モ亦之ヲ爲スナリ之ニ反シ獨逸ニ於テ國家ヨリ保險ノ實行ヲ命セラルル所ノ職業組合ハ相互組織ニ據リテ保險團體ヲ形成セリ是レ國家カ直接ニ保險ヲ經營スルニ非スシテ人民ニ強制シテ

之ヲ經營セシムルモノナルヲ以テ純然タル相互組織ヲ行フコトヲ得ルモ國家カ直接ニ之ヲ營ム所ノ前者ニ在リテハ國家ノ任命シタル吏員ヲ保險契約者ノ投票ニ依リテ交迭セシムルヲ得ルカ如キ矛盾セル方法ヲ探ルコト能ハサレハナリ

第四 全國ヲ通シタル總括的ノ國立保險機關ヲ設クルト各地方ニ獨立ノ保險所ヲ設置セシムルノ別アリ例ヘハ曩ニ公共火災保險ノ條下ニ述ヘタル獨逸諸聯邦ノ中普魯西亞ノ如キハ諸方ノ市町村ニ公共的施設ヲ命スルノミニシテ「バーエルン」「ザクセン」「バーデン」其他ノ諸聯邦カ中央ノ國立火災保險所ヲ有シ全國ノ保險ヲ統一スルカ如シ

第五 國立事業ヲ以テ保險ヲ獨占スルト民業ト竝立シテ之ヲ行フ場合トヲ區別スルヲ得ヘシ然レトモ實際ニ於テハ古往今來世界ノ邦國中保險ヲ絕對的ニ國家ノ獨占ト爲シタルヲ見ス況ンヤ一國中ニ於テ凡テノ保險ヲ政府ノ專業ト爲サント欲スルカ如キ企畫ニ於テヤ保險ノ如キ既ニ今日人

生ノ必需トシテ認識要求セラルルモノヲ自由競争ニ任サスシテ少數者ノ獨占スルヲ許スヘカラサルノ理ハ吾人ノ嗚嗚スルマテモ無ク一般經濟的社會的法則ノ宣明スル所タリ火災保險會社ノ保險料同盟カ往往非難ヲ蒙ルハ之カ事實上ノ獨占ニ陥ル恐アレハナリ然レトモ苟モ國家カ新會社ノ設立ヲ禁止セサル以上ハ理論上此獨占ヲ打破スルノ勢力ナシト言フヘカラス然ルニ今政府カ全國ノ火災保險事業ヲ獨占シタリトセンカ之カ人民ノ利益ト國家ノ富強ノ爲メニ施設セラルル間ハ可ナリトスルモ野心アル政治家ノ爲メニ利用セラレ政府者流ノ財囊ヲ豐膩ナラシムル策略トシテ自然ニ保險料ノ増額ヲ強イラルルモ人民ハ之ヲ如何トモスル能ハサルヘシ此ノ如キ惡業ハ財政ノ困難ニシテ政治家ノ德義カ頽廢シタル國家ニ於テ之ヲ想像スルコト難キニ非サルナリ

斯ク國家ノ獨占カ許スヘカラサル惡策タルニ反シ官民竝立ノ主義ハ最吾人ノ贊スル所ニシテ所謂官營ト雖トモ之カ民間事業ト竝立スル場合ハ之

ヲ許容スルノ理由ナキニ非スト思惟ス何トナレハ縱令政府カ收利ノ目的ヲ以テ保險ヲ行フト雖トモ其威信ト聲望ノ爲メニ常ニ民間事業ヨリ多クノ利便ヲ公衆ニ供セサルヘカラス然ラサレハ人民ハ之ト契約セサレハナリ況ンヤ政府カ保險思想ノ開發ト其領域ノ開拓ヲ主眼トシテ模範的ノ保險事業ヲ建設スルトキハ民間業者ハ之ト競争シテ公衆ノ利便ヲ圖ラサルヘカラス即チ財力信用薄弱ニシテ保險金ノ支拂ヲ全ウスル能ハサル如キモノハ自然ト滅亡ニ赴クヘク鞏固ナル會社ハ迅速ナル支拂寛大ナル保險約款ト其解釋多クノ利益分配等有ラユル手段ヲ盡シテ世人ヲ迎フルニ勉ムルノ利益アルヲヤ

而シテ是レ同一種類ノ保險ニ就テ言フ所ナルカ國家カ其國立ニ最適當ナル保險ノ種類ヲ經營スル場合ニ於テモ競争ノ利益ハ無シトスルモ人民カ國家ノ保險事業ヲ尊重スルノ事實ヲ認識スルトキハ又自ラ一般保險事業ヲ重要視シ之カ利用ト扶植ニ關スル熱心ヲ増スニ至ヘルシテ此國家

ノ先導ハ殊ニ人民ノ知識未タ充分進歩セス官尊民卑ノ陋風未タ退カサルカ如キ幼稚ナル社會ニ於テハ殊ニ其卑淺ナル保險思想ヲ向上セシムルニ付テ大ナル效果アルモノナリ

現今世界ニ於テ國立保險ハ殆ント皆民間事業ト竝立シ互ニ扶掖シテ斯業ノ發達ニ協力シツツアルナリ英國ノ郵便局營保險ハ却テ其民業簡便生命保險ノ聲名ヲ赫赫タラシメ「ニュージーランド」ノ生命火災保險ハ民間同業ノ會社ト盛ナル競争ニ驅聘シテ互ニ相下ラサルノ概ヲ示セリ而シテ獨逸ノ勞働者ニ對スル各種ノ保險ハ又更ニ民業ノ發達ヲ阻止セス又縱令之ヲ爲ストモ毫モ憂フルニ足ラス何トナレハ民業ハ到底國立保險ト同一ノ恩惠ヲ人民ニ光被セシムル能ハサレハナリ但獨逸ノ諸聯邦及ヒ瑞西ノ諸州ニ行ハルル不動産又ハ動産ノ火災保險ハ一部獨占ノ狀態ヲ呈スト雖トモ之ニハ他ノ問題ト關聯シテ考察セサルヘカラサル事情アリ即チ國家ハ之ニ獨占ヲ認ムルト同時ニ受諾義務(Annahmepflicht)ヲ強制シ最甚シキ程度ノ外危險

ノ選擇ヲ許ササルナリ是レ保險ノ普及ト被澤範圍ノ擴張ノ爲メニ必要ナル處置ニシテ受諾義務ノ強制ハ其半面ニ獨占ノ權利ヲ以テ償ハレサルヘカラサルノ趣意ヨリ出テタルナリ

第六 國立ニハ強制保險ノ國立ト任意保險ノ國立ヲ區別スルコトヲ得ヘシト雖トモ強制保險カ自由ナル民業ニ依リテ實行セラルルコト殆ント無キト同時ニ國立主義ハ強制保險ニ對シテ之ヲ實行スルノ理由最多ク強制ト國立ハ離ルヘカラサルモノタルヲ記憶セサルヘカラス何トナレハ國家カ人民ヲ強制シテ保險ニ加入セシムル以上ハ國家カ人民ノ利益ヲ保證セサルヘカラサルハ當然ニシテ從テ之ヲ保證ナキ民業ニ赴カシムルヲ得ス人民モ亦之ニ赴クヲ肯セサルヘケレハナリ而シテ國立保險ハ人民ノ任意ナル保險の需要ニ應スルニ於テモ亦善良ナル方法ヲ以テスレハ敢テ之ヲ妨ケス公私竝立ノ如キハ時トシテ寧ロ希望セラルヘキ事態ナリト雖トモ其本領ハ強制保險ノ實行ニ在リト言ハサルヘカラス何トナレハ渠ハ強制保

險ノ唯一ノ執行者ニシテ之カ無二ノ伴侶タレハナリ民業保險ノ伴侶トシテハ渠ノ外ニ又監督アリ保護獎勵ノ道アリ以テ其弊害ヲ矯正シ其利益ヲ發揚スルヲ得ヘキヲ以テ強制ト關聯セサル國立保險ハ最慎重ニ之ヲ攻究スルヲ要ス然レトモ國家又ハ地方自治體カ受諾義務ヲ負ヒ或ハ保險費用ノ一部ヲ自辨スルカ如キコトアラハ之カ國民ノ全體ヲ害セサルヲ限リ吾人ハ直チニ之ニ國立ノ正義ヲ認メサルヘカラサルナリ

第三節 國立保險ノ範圍ト利益

強制保險ノ實行ハ縱令直接間接ノ別アリトスルモ常ニ國立保險ニ依ラサルヘカラス是レ即チ國立保險ノ動カスヘカラサル範圍ナリト雖トモ之カ又任意保險ノ領域ニ延長セラルル場合ニハ目的トスル所ノ保險ノ種類ニ由リテ其正當ナル範圍ヲ定メサルヘカラス人民ノ任意ナル需要ニ基ク保險ヲ其種類ノ何タルヲ論セス悉ク國立組織ヲ以テ經營セント欲スルハ無用ノ業ニシ

テ予ハ又之ヲ強制保險ノ範圍ト同シク第二章ニ於テ説明シタル社會的及ヒ國家的保險ニ限ラント欲スルナリ何トナレハ商賈資本家富者等ハ其知識ニ依リテ民間保險事業ノ善惡ヲ甄別シ又財産的勢力ヲ以テ民業ノ專横ニ對抗スルヲ得ヘシト雖トモ下層ノ社會ト資産ナキ者ハ此ノ如キ能力ヲ有セス生存競争上常ニ收利本位ノ民業ニ壓服セラレ又ハ其失敗ヲ豫知スル能ハサルノ患アリ又國家ノ富强ニ資スルコト大ナル農業保險ノ如キ非常ニ廣大ナル規模ヲ以テスルニ非サレハ實行シ難キ保險ノ種類ハ之ヲ國家ノ經營ニ埃タサルヘカラサルモ然ラサルモノハ又民業トシテ良好ニ成立スルヲ得レハナリ

以上ノ所説ヲ反覆スルトキハ社會的及ヒ國家的保險ノ領域ハ強制保險ト任意の國立保險ノ分チテ其範圍トスル所ニシテ此領域ニ於テハ國立保險ノ利益ナルコトヨリ寧ロ其必要ナルコトカ問題トナル場合少カラス而シテ官業保險ノ擁護者ハ往往其主張ヲ一般保險ノ領域ニマテ擴張シテ其利益ヲ説ク

者少カラス今試ニ國立保險論者ノ棟梁トモ謂フヘキ「ワグナー」氏ノ國家ト保險事業ト題スル書冊(一八八一年出版)中ニ於テ國立保險ノ必要ト利益ヲ舉ケタル數箇ノ要點ヲ掲ケン

第一 保險事業ハ海上保險ニ於テ稀ニ例外ヲ見ルノ外一個人ノ私的經濟ヲ以テ經營セラルルコト無シ是レ一私人ノ能力ト資本ト信用カ到底之ニ適セサルノ致ス所ニシテ保險者ノ常ニ執ル所ノ株式會社竝ニ相互會社ノ組織ハ即チ簡人ノ必需ヲ満足セシムル所ノ經濟的形態ニ非スシテ公共ノ必需即チ多數ノ必需ニ應スル所ノモノ例ヘハ貨幣信用交通等ノ循環制度竝ニ給水點火事業ノ如キト同シク公立ノ經營ヲ要スルモノニシテ保險ヲ普通ノ經濟的企業ト思惟スルハ甚危險ナリ

第二 民業保險會社特ニ株式組織ノ會社ハ深黒ナル經濟的及ヒ財政的暗影ヲ有スル現代ノ資本投機ヲ代表スルモノニシテ彼等ハ又殘忍ナル競争ノ格闘ヲ試ミテ商賣ノ目的ヲ果サンカ爲メニハ其手段ヲ擇ハス代理人制度

紹介料募集訪問誇大廣告新聞雜誌利用公衆誘惑等ノ有ラユル方法ヲ用ヒ盡スナリ

第三 私營保險ノ組織ハ國家全體ノ經濟ヨリ見テ資本ト勞力ヲ徒費スルコト甚シク同一地方ニ同時ニ同一ノ事業ヲ營ムノ愚ヲ演スルコト頗ル多シ若シ大規模ノ公共保險ヲ創設シテ統一の集權的ノ經營ヲ爲サハ能ク此勞費ヲ節約シ得ルノミナラス最小ノ資本ヲ以テ最大ノ效果ヲ收ムルノ道ニ協ヘリ

第四 保險事業ヲ國立トスルトキハ民業保險ニ對スル監督法制ノ困難ヲ避クルヲ得凡百ノ難問題例ヘハ免許主義定款ノ内容干涉常時ノ監督其他ノ事項ハ一時ニ之ヲ除去スルヲ得ヘシ

第五 獨逸ニ於テハ重要ナル保險ノ一種類即チ火災保險特ニ不動産ノ火災保險ヲ國營ニシ其經驗ノ結果頗ル良好ニシテ絶對的ニ國立保險ノ優勝ナルヲ證明セリ

第六 官公吏員ハ規律整頓セル公立事業ヲ組織スルニ充分ニシテ保險ハ特ニ之ヲ要求スルコト多シ加之既ニ國家竝ニ地方ノ行政機關アル故ニ特別ナル勞力ヲ要セスシテ之ヲシテ無償若クハ些少ナル報償ヲ以テ保險事務ヲ處理セシムルヲ得ルヲ以テ經費ニ多大ナル節約ヲ爲スコトヲ得ルノ利アリ

第七 民業保險ハ富裕ニシテ教養アル公衆ノ用ニ供セラルルモ下層社會ヲ之ニ誘導スルニハ絶對的ニ公立保險ノ施設ヲ必要トス

第八 國立保險ヲ國民全體ノ上ニ擴張シ殊ニ之ヲ上流社會ニモ及ホストキハ危險ノ平均ヲ得ルニ就テ多大ノ利益アリ

第九 今日民間保險事業ニ於テ行ハルル所ノ危險ト保險料ノ等差法ハ保險者ノ營利心ヲ増上セシメ社會經濟上危險ナル結果ヲ惹起スルモノトス即チ危險測定ノ精確ヲ求ムルニ從ヒテ善良ナル危險ヲ擇ヒ劣惡ナル危險ヲ排斥シ即チ實際屢之ヲ保險ヨリ除外スルニ至ルノ虞アリ國立保險ヲ以テ

及フ限リ危險階級ノ區別ト保險料ノ等差ヲ寬ニシ下層社會ノ利益ニ歸著スヘク保險料ノ平均ヲ行フコトヲ得ヘシ

トアリ而シテ氏ハ又左ノ數言ヲ以テ其所論ヲ結ヘリ曰ク

第十 利益ノ増上ヲ望ムノ念慮ハ保險事業ノ發達ト天職ヲ害シ凡百ノ危險ハ此ニ胚胎ス之ヲ要スルニ保險ハ其本質上決シテ自由交通ニ支配セラルル營利事業ニ非ス正ニ一箇ノ公共制度ニシテ從テ又斯ノ如ク處理セラレサルヘカラサルナリ

ト辛鹹ナル言辭強剛ナル主張眞ニ天下ニ盛名ヲ馳スル所ノ學者ニ恥チスト謂フヘシ然レトモ言ノ及ハサル所意ノ至ラサル所亦固ヨリ少シトセス予ハ直チニ之ヲ以テ保險ノ國立ヲ謳歌セント欲スルモノニ非スト雖トモ姑ク借リテ以テ公私兩論者ノ研鑽ニ供セント欲スルノミ而シテ予ハ假ニ「ワグナー」氏ノ後塵ヲ拜シテ尙二三公立ノ優所ヲ掲ケテ氏ノ所説ヲ補ハント欲ス

第十一 支拂ノ確保

保險ノ要ハ吾人カ災厄ニ遭遇シタル場合ニ於テ速ニ之カ救濟ヲ行フニ存シ保險ニ加入スル者ノ唯一ノ目的ハ即チ之ナリ若シ保險者カ被保險者ニ對シテ損害填補又ハ保險金支拂ノ實ヲ舉クルコト能ハストセンカ何ノ爲メニ保險ノ行ハルルヤヲ疑ハサルヲ得ス「ワグナー」氏モ亦其保險論(シヨエンベルヒ)氏經濟全書所載ニ於テ民業保險ニ免許ヲ要スルノ理由ヲ説クニ當リテ銀行ト保險ノ業務ヲ比較シ商業銀行ハ固ヨリ自餘ノ銀行モ預金者ハ或種類ノ階級ト地方ニ局限セラルルモ保險ノ擴張ハ絶對的公衆ノ利害ニ關スルモノニシテ生命火災電害保險等ヲ營ム會社ハ絶對的ニ其引受ケタル責任ヲ果シ得サルヘカラスト説ケリ然レトモ民業ニ對シテ免許ハ固ヨリ尙其他ノ雜多ナル干涉ヲ施スニモ拘ハラズ不拂倒産ノ會社ヲ發生セシムルニ於テハ國立論ノ根據最有力ナラサルヲ得ス國家市町ノ如キ無窮ナル財團ノ保證ハ民業ニ勝ルコト論ヲ埃タサルナリ「ワグナー」氏ハ其保險論中ニ於テ公立火災保險ニ關シ此優處ヲ主張セリ

第十二 保險料ノ激動ヲ防キ其平準ヲ得セシムルノ利アリ

保險ハ雷ニ多人數間ノ幸不幸ヲ平均スルノミナラス又時期ニ關スル危險ノ多少ヲ平均シテ加入者ノ利便ヲ圖ルヲ以テ其主眼トス例ヘハ火災保險ニ於テ比年火災少ケレハ保險料非常ニ低落シ一朝大火アレハ忽チ暴騰シテ數倍ノ高率ヲ要求スルカ如キハ雷ニ保險ノ本旨ニ違ヘルノミナラス物價ノ平準ヲ害シ社會經濟ノ基礎ヲ破壞セントスル惡業ナリ米鹽衣住ノ必需品ニシテ價ノ變動此ノ如ク甚クシクンハ人何クニカ適歸センヤ保險ハ決シテ吾人財政ノ餘裕ヲ以テ之ヲ行フモノニアラスシテ明ニ人生ノ必需品ナリ而シテ保險料ハ此必需品ノ價格ニシテ其激動ノ爲メニ世人ノ感スル所ノ苦痛ハ名狀スヘカラサルモノアリ此ノ如キ弊害ニ對シテハ國家ノ監督權ヲ應用シ凡テノ種類ノ保險事業ニ對シテ生命保險ノ如キ確定セル統計基礎ト保險料表ヲ要求シ之ニ從ヒテ衡平ナル事業ヲ行ハシムル方策ナキニ非サルヘシト雖トモ此ノ如キ方法ハ往往膠柱ノ弊ニ陥リ易キヲ以テ

寧ろ國立ノ利ナルヲ想ハスンハアルヘカラス

第十三 國立保險ハ保險ノ弊害ヲ防遏スルノ利便ヲ有ス

保險制度ニ隨伴セル恐ルヘキ危險ト之ヲ防止スルノ方策ハ曩ニ詳説シタルカ如シ而シテ此危險ハ保險業者ノ自由競争ニ由リテ益其度ヲ高メ之カ防止ハ獨リ危險事業ノ經濟ニ利益ヲ與フルノミナラス國家全體ノ福祉ニ貢獻スルコト少カラサルヲ以テ國家ハ民間業者ヨリモ之カ施設ニ熱中スヘク殊ニ權力作用ノ幫助ヲ要スル場合ニ於テハ他ノ機關トノ密接ナル連絡ヲ得ルノ點ニ於テ國立保險ノ利益ハ到底民業ノ及フ能ハサル所アリ保險國立ノ主張ハ常ニ如上ノ積極的論據ヲ有シ多クハ絶對的ニシテ且根本的ナリ而シテ民業論ハ常ニ消極的ニシテ國立論ノ弱點ヲ衝キ其利益無キ所以ヲ明ニスルノ方向ニ出テ例ヘハ國立ハ人民ノ營業自由ヲ害スルト言フカ如キ根本的議論ノ外多クハ官僚商賈繁文褥令ト云フカ如キ枝葉ノ事項ニ亘ルコト多キモ是レ前者ノ性質ハ攻勢的ニシテ後者ハ防禦的ナルノ致ス所ニ

シテ當然ノ結果ナリ故ニ予ハ茲ニ事事シク前掲國立保險ノ必要ト利益ニ對スル否認ノ論辯ヲ試ミサルナリ

第四節 國立保險ノ形態及ヒ組織

國立保險ノ講究ニハ營利的ト非營利的官僚的ト自治的專斷主義ト相互主義總括的ト地方的獨占ト竝立強制ト任意竝ニ保險種類ノ範圍如何ノ問題アルハ前數節ニ述ヘタル如クニシテ是等ノ諸方面ヲ種種ニ配合セシムルトキハ國立保險ノ形態ハ頗ル多様ニシテ數十ヲ算スルヲ得ヘシ然レトモ總テノ種類ノ任意的保險ヲ全國ニ亘リテ獨占スル營利事業ノ如キハ殆ント想像スヘカシサル惡策トシテ言フニ及ハス凡テ獨占的ノ營利事業ハ國家ニ對シモ許スヘキニ非ズ又獨占タラストモ國家カ人民ヲ對手トシテ保險ノ如キ性質ノ事業ヲ營利ニスルカ如キハ不可ナリト言ハサルヘカラス又縱令公私竝立ヲ可ナリトスルモ國家カ專ヲ資本家ヲ對手トシ或ハ複雜ナル技術ニ基キ若ク

ハ利用者ノ範圍ノ至テ狹小ナル保險ノ種類例ヘハ海上運送信用機關汽罐保險ノ類ニ至ルマテ其手ヲ下スノ理由ナシ斯克詮シ來レハ國立保險ノ許容セラルヘキ形態ハ實際至テ僅少ニシテ現今世界ニ於テ保險學上ノ立脚點ヨリスルハ固ヨリ政治家經濟家等ノ見地ヨリシテ概シテ善良ナル政治經濟的施設ナリト稱セラルルハ主トシテ獨逸帝國ニ於テ行ハルル勞働者ノ強制保險同諸聯邦ニ於テ行ハルル強制若クハ任意ノ火災保險及ヒ家畜電害ノ保險竝ニ遠ク濠洲「ニュージールランド」ニ行ハルル生命保險事業ナリトス故ニ今是等ノ起源竝ニ組織ノ概要ヲ讀者ニ紹介セント欲ス

第一款 獨逸ニ於ケル國立勞働保險

獨逸帝國ニ於ケル人心慰撫ト社會改善ノ一大事業タル國立勞働保險ハ實ニ千八百八十一年十二月十七日皇帝「フリードリヒ・ヴィルヘルム」第一世カ其帝國議會ニ下シ給ヒタル詔勅ヲ以テ開幕セラレタリ此詔勅ハ社會政策ノ大憲章

(Great Charter)ナリトテ嘖嘖人口ニ繪炙スル所ナルヲ以テ茲ニ其全文ヲ掲ケ、ト雖トモ要スルニ恒久ナル國家ノ福祉ト社會ノ安寧ヲ得ンカ爲メニハ勞働ニ從事スル人民ヲ愛撫スルノ必要アリト思惟スルカ故ニ勞働者ノ職業傷害疾病救助竝ニ老年廢疾ニ關スル保險ヲ創設シ彼等ヲ之ニ強制シ相互主義ト自治ノ方法ニ依リテ之ヲ實行セシメ公衆慈善ノ恩惠ニ賴ラスシテ公明正大ナル保護ヲ國家ニ要求スルノ權利ヲ得セシメント欲ス諸員其黨派ノ如何ヲ問ハス之ヲ翼賛セヨト云フニアリ當時獨逸ニ於ケル社會開化ノ急激ナル進歩ハ又之ニ伴フ所ノ弊害ノ急激ナル増嵩ヲ來シ貧富ノ懸隔漸ク著シカラントスルニ至リテハ貧窮者及ヒ犯罪人ノ増加ヨリハ寧ロ恐ルヘク忌ムヘキ社會黨ノ勃興ヲ促サントス社會黨ハ獨リ資本案ニ敵對スル經濟的不平者タルノミナラス又顯貴ヲ嘲ル政治的不滿家ナルヲ以テ之カ發生ヲ防遏スルノ方法ヲ企畫シ得サレハ國家ノ萬代不朽ヲ望ムヘカラスト思惟シ賢明ナル中興ノ英主ハ不世出ノ宰相ビスマーク公ト謀リ保險ノ方法ヲ利用シテ社會黨ノ

郷里タリ後援タル労働社會ノ慰撫ト救護ニ著手シタルナリ
 先ツ其疾病保險ニ就テ言ハンカ千八百八十三年ノ疾病保險法ハ労働者ノ疾
 病ニ罹リタル場合ニ之カ救濟ト從業不能ニ因スル勞銀ノ損失ヲ償フヲ以テ
 保險ノ目的トシ鑛山製鹽製鐵道内海航業浚疏造船建築土木鑿地諸般ノ製
 造工場等ニ從事スル者漁業辯護士公證人執達吏ノ事務疾病財團職業組合等
 ノ職務ニ從事セル吏員動力ヲ用フル諸般ノ工業郵便電信電話事業海陸軍ニ
 屬スル經理事業等ニ從事スル者ニシテ一箇年ノ收入二千馬克ヲ超エサル者
 ヲ強制シテ被保險者タラシメ又其他ノ商工業ニ從事セル獨立ノ労働者吏員
 ニモ任意ニ加入スルコトヲ許シ後數回ノ修正法ヲ以テ加入者ノ範圍ヲ擴張
 シ現今ニ於テハ總テ身心ノ勤勞ニ依リテ衣食ノ資ヲ得ル職工吏員ニシテ年
 收二千馬克ニ滿タサル底ノ者ハ獨立タルト他人ニ使役セラルルトヲ問ハス
 殆ント皆此保險ノ恩澤ヲ受ツツアルナリ
 而シテ此保險ヲ執行スル者ハ各地方ニ於ケル義務的の疾病組合ニシテ義務的

疾病組合トハ疾病保險法ノ規定ニ依リテ必ラス組織セサルヘカラサル保險
 團體ニシテ主トシテ傭主ノ強制セラルル所ナリ而シテ此組合ニ數種ノ別ア
 リ

一 地方疾病組合 (Ort-Krankenkasse)

又職業疾病組合ト稱スルモノニシテ國內最多數ヲ占ムル所ノモノナリ即
 チ定メラレタル各區域(一箇若クハ數箇ノ町村ヨリ成ル)内ニ於ケル一種若
 クハ數種ノ職業ニ據リ其業主ヲシテ組合ヲ組織セシメ其使役スル所ノ職
 工事務員等ヲ被保險者トシテ保險セシムルモノナリトス而シテ組合員ハ
 被保險者タル使用人ニシテ業主ハ保險事務執行ノ經費ヲ負擔シ其經理ニ
 與ルノミニシテ組合員ニアラス
 疾病組合ハ廣キ自治權ヲ有シ其内務ハ自家ノ設定シタル定款ヲ以テ之ヲ
 規定シ組合ノ機關トシテ役員會及ヒ總會ヲ設ケ會計モ亦之ニ依遵シテ處
 理セラルト雖トモ法律ハ財産運用法危險準備金設定ノ爲メニスル徵收ノ

方法收支ノ定則地方廳ノ監督年度決算ノ方式役員及ヒ會計員ノ責任等ニ
關スル羈絆ヲ設ケタリ

二 事業疾病組合 (Betriebs-Krankenkasse)

大規模ノ事業主カ其一箇又ハ數箇ノ事業ノ爲メニ設クル所ノモノニシテ
自家ノ事業ニ五十人以上ノ被保險義務アル労働者ヲ使用スルトキハ一箇
ノ事業疾病組合ヲ設クルノ權利アリ其他ハ地方疾病組合ト大差ナシ

三 工事疾病組合 (Bau-Krankenkasse)

一時多數ノ労働者ヲ使役スル工事アル場合ニ設立スヘク命セラルル所ノ
組合ニシテ例ヘハ鐵道掘削道路河川堤防要塞工事等ノ場合ノ如シ此ノ如
キ組合ヲ設立スルノ必要ハ一町村ヨリ他ノ數多ノ町村ニ亘リテ大工事ヲ
行フニ當リテ監督ノ困難組合員ノ出入ヲ報告スルノ煩雜等アルカ爲メニ
シテ工事ト共ニ始マリ之ト共ニ終ル所ノ特別ナル組合ナル故ニ其數常ニ
多カラス而シテ工事主又ハ工事請負人カ之ヲ設置スルモノトス

四 職業組合疾病組合 (Innungskrankenkasse)

従前工業條例ニ據リテ設立セラレタル職工救濟組合ノ如キモノニシテ之
ニ多少ノ檢束ト要求ヲ行ヒテ疾病保險ヲ實行セシムルナリ

五 鑛業疾病組合 (Knappschaftskrankenkasse)

是亦前者ト同シク従前鑛業條例ニ基キテ強制セラレタル鑛業主ノ救濟組
合ヲ改良費用セシメタルモノナリ

六 公共疾病保險 (Gemeinde-Kranken-Versicherung)

以上五種ノ何レニモ屬セサル労働者ヲ集メテ疾病保險ヲ行フモノニシテ
各地市町村ノ如キ公共團體ノ建設ニ係ルモノナリ而シテ他ノ組合ノ如ク
獨立シタル法人ニモアラス又特別ナル定款機關等ヲモ有セス其經營ハ公
共團體ノ機關ノ行フ所ニシテ公共團體カ此保險組合ノ財産ヲ所有シ保險
料ノ請求權ヲ有シ又其債權者ニ對シテハ公共團體ノ財産ヲ以テ其責ニ任
スルモノトス然レトモ實際ハ特別會計ヲ設定シテ之ヲ行ヘリ又市町村ノ

如キ狹小ナル團體ニアラスシテ府縣ノ如キ行政體カ之ヲ行フコトアリ又數箇ノ市町村カ聯合シテ一ノ疾病保險ヲ創設スルヲモ妨ケサルナリ

七 組合聯合

同一ノ監督區域内ニ在ル疾病組合ハ地方事業工事組合及ヒ公共ノ別ナク共通ノ目的ヲ達センカ爲メニ聯合組合ヲ組織スルヲ要ス共通ノ目的トハ共通ナル會計員其他ノ役員ヲ置クコト醫師藥劑師病院醫療器具藥劑其他治療ニ必要ナル材料ノ販賣者ト共同ノ契約ヲ爲スコト罹病シタル組合員ノ爲メニ設クル病院養生園其他ノ事業竝ニ疾病豫防ニ關スル共同設備又ハ共同費用ノ出資等ナリトス此聯合組合ハ獨立ノ法人ニシテ其名ヲ以テ權利義務ノ主體タルヲ得ルナリ

被保險者カ疾病ニ罹リタル場合ニ於テ爲ス所ノ給與ノ範圍ハ組合ノ種類ニ由リテ多少ノ差違アリト雖トモ法律ヲ以テ定メタル最小限度ハ次ニ掲クル如クニシテ其期間ハ少クトモ十三週間ナリトス

一 發病ノ時ヨリ無料ニテ醫師ノ診察ヲ受ケシメ又藥餌眼鏡繙帶等ヲ給スルコト

二 職業ニ従事スルヲ得サル場合ニハ發病ノ第三日目ヨリ毎日其給料ノ半額ニ當ル扶助金ヲ給シ又特別ノ場合ニハ本人ヲ無料ニテ入院セシメ家族ニ對シテ扶助金ヲ給スルコト

三 死亡シタル場合ニハ平均日給ノ二十倍ニ相當スル葬費ヲ給スルコト

四 女子ノ被保險者ニ對シテハ娩産後四週間扶助料ヲ給スルコト
被保險者ノ出資即チ保險料ノ額ハ是亦組合ノ種類ニ由リテ異ナリト雖トモ大體ヲ言ヘハ日給ノ百分ノ一以上百分ノ三以下ニシテ傭主カ其使用人ノ保險ヲ爲ス場合ニハ保險料ノ三分ノ一ヲ負擔セサルヘカラス即チ殘餘三分ノ二ハ使用人自身ノ出資ナリトス

次ニ傷害保險ニ就テ言ハシニ千八百八十四年七月六日傷害保險法ヲ發布シテ勞働者及ヒ年給二千馬克以下ノ職員ニシテ既ニ傷害ノ發生シタル事實ア

ル總テノ工業又ハ機械ノ補助ニ由リ人力ヲ以テ行ハルル所ノ生産事業若クハ或種類ノ建築事業ニ従事スル所ノ者ハ總テ被保險者タルノ義務アリトシ備主ヲシテ同業組合ヲ組織セシメ此組合ヲシテ相互組織ノ保險ヲ實行セシムルモノトス

此保險ノ目的ハ勞働者又ハ下級ノ吏員カ其職務ニ従事セル間ニ發生シタル奇變ノ爲メニ受ケタル身體上ノ損傷若クハ死亡ニ對シテ補償ヲ行フニアリ故ニ其他ノ場所ト原因ニ由リテ生シタル損傷死亡ハ之ヲ除外セリ而シテ其補償ノ種類ハ治療ノ費用休業中ノ一定ノ給與死亡ノ場合ニ對スル葬費及ヒ遺族ニ對スル一定ノ給與ニシテ被保險者カ全然不具ニ歸シタルトキハ一箇年ノ平均給料ノ三分ノ二ヲ給シ一部ノ從業不能ニ對シテハ又其一部ヲ給與スルモノトス

傷害ヲ被リタル日ヨリ十三週間ハ疾病組合若クハ備主ニ於テ治療ヲ負擔シ且ツ五週間目ノ始ヨリ備主ノ費用ヲ以テ通常給料ノ三分ノ二以上ノ扶助料

ヲ給スルモノトス治療ニ關シテハ疾病保險ト傷害保險ハ相關聯スルモノナリ
 諸種ノ補償即チ保險金ノ支拂ハ組合ノ主事ヨリ指圖シタル郵便爲替ヲ以テ之ヲ爲シ受取人ハ之ヲ以テ所在ノ郵便局ヨリ現金ヲ受取ルモノトス是レ國家カ工業主ニ代リテ保險金ノ立替拂ヲ爲スモノニシテ毎年度ノ終ニ之ヲ計上シ組合ニ賦課シテ納入セシムルモノトス而シテ此保險金竝ニ事業經營ノ費用ハ總テ同業組合員ノ負擔スル所ニシテ被保險者タル勞働者ハ毫モ保險料ノ負擔ヲ要セス此種類ノ保險ハ備主ノ責任保險ニシテ各業主ノ負擔スヘキ保險料ハ組合ニ於テ各種ノ職業別ニ基キテ調査シタル危險等級表ト其支拂フ所ノ給料ノ金額ヲ標準トシテ其率額ヲ定ムルモノトス
 此ノ如ク事業ノ種類ニ由リテ傷害ノ種類ト危險率竝ニ發生ノ狀況等ヲ異ニスルヲ以テ一箇ノ法律ヲ以テ之ヲ覆フノ適當ナラサルヲ知リ漸次特別法ヲ制定シテ事業種類ノ分科ト増補ヲ試ミタリ即チ千八百八十六年農業傷害保

險法ヲ制定シ千八百八十七年ニ於テ建築傷害保險法及ヒ海上傷害保險法ヲ發布シタリ而シテ其間是等保險ノ範圍擴張ニ關スル修正増補ノ法律發布セラレタルコト勿論ナリ

最後ニ老年廢疾保險ヲ少敍センニ之ニ關スル法律ハ千八百八十九年ニ發布セラレ同九十一年ヨリ實施セラレシカ千九百年ニ至リテ著シキ改正ヲ施コサレタリ此保險ノ目的ハ給料又ハ俸給ニ依リテ生活スル人人カ疾病竝ニ傷害保險ノ保護ヲ受ケサル場合ニ於テ之ニ法律上ノ給養ヲ付與スルニ在リ之ニ強制セラルル者ハ第一滿十六歳以上ニシテ諸種ノ工業ニ從事スル者徒弟給仕小使ノ類ヲモ包含シ第二支配人(課長技師ノ類)商業手代(書記見習等)其他ノ使用人(例ヘハ船長)學校教員等ニシテ年俸二千馬克以下ノ者第三聯邦議會ノ命令ニ據リ僅ニ一人ノ助手ヲ使用スルノミノ親方及ヒ家内工業者トシ任意ニ加入ヲ許サルル者ハ第一年給二千馬克以上三千馬克以下ノ凡テノ使用人第二二人ノ助手ヲ使用スル親方及ヒ家内工業者ニシテ強制セラレサル者

第三不斷勞役ニ從事セス又ハ給料ヲ受ケスシテ只衣食ヲ給セラルルノミナルカ爲メニ強制ヨリ除外セララルモノナリトス

此保險ハ恰モ年金制度ノ如キモノニシテ被保險者カ疾病傷害ニ由リテ廢疾ニ歸シタル場合ニハ廢疾年金ヲ交付シ又七十歳ノ高齢ニ達シタルトキハ養老年金ヲ受領スルヲ得ルモノトス然レトモ被保險者カ二百週間以上保險料ヲ拂込ミタル後ニ非サレハ廢疾年金ヲ受クルヲ得ス千二百週間ヲ經過シタル後ニ非サレハ養老年金受領ノ權ヲ得サルモノトス

保險料ハ被保險者カ使用人タル場合ニハ僱主ト等分ニ之ヲ負擔シ獨立者タル場合ニハ自ラ其全部ヲ負擔ス而シテ國家ハ保險料ニ對シテ補助スル所ナシト雖トモ毎年年金受領者一人ニ對シ五十馬克ノ補助金ヲ支出スルヲ以テ要スルニ此保險ハ勞働者カ僱主ト政府ノ補助ニ依リテ其利益ヲ享受スルモノトス而シテ保險料ノ拂込ハ通常僱主ヨリ之ヲ爲シ當該地方保險所ニ就キテ保險印紙ヲ購求シ必要ナル掛金ニ對スル分ヲ被保險者ノ所有セル通帳ニ

貼付シ其證印ヲ得ルモノトス年金ノ給與モ亦保險所ヨリ發行スル郵便爲替ニ依リテ郵便局ヨリ支拂ハシムルモノトス
 被保險者ヲ其收入ノ多寡ニ由リテ五級ニ分チ各級ニ對スル每週ノ保險料額竝ニ年金給與額ヲ定ムルコト左ノ如シ

等級	週掛金	老年恩給	廢疾恩給
第一級	十四片	百十馬克四十片	百十六馬克四十片
第二級	二十片	百四十馬克四十片	百二十六馬克
第三級	二十四片	百七十馬克四十片	百三十四馬克四十片
第四級	三十片	二百馬克四十片	百四十二馬克二十片
第五級	三十六片	二百三十馬克四十片	百五十馬克

但廢疾年金ハ加入後經過シタル年數ノ増加スルニ從ヒ上記ノ金額ヨリ漸増スルモノニシテ五十年後ニ至リテハ五級ニ於テ四百五十馬克ヲ給與スルヲ得ルナリ

老年廢疾保險ノ執行ハ郡縣ノ如キ行政區劃ヲ以テ所轄區域トスル所ノ特別ナル保險所ニ委任シ政府之ヲ保證ス各保險所ハ法人ノ性質ヲ有シ傭主及ヒ被保險者ヨリ選出セラレタル各五名以上ノ代表者ヨリ成ル役員會ノ作成シタル定款ニ依遵シテ其業務ヲ執行スルモノトス
 以上ハ三種ノ國立保險ノ最簡短ナル記述ニ過キサレトモ又以テ其全豹ヲ窺ハシムルニ足ラン而シテ尙一言之ニ附加スヘキハ是等ノ保險ハ被保險者ヲ本位トスル所ノ相互的自治的ノ精神ニ基クモノナレハ其請求權ヲ保護スル爲メニ特種ナル裁判機關ヲ定ムルコトニシテ其最高府ニシテ同時ニ此國立保險ノ全體ヲ監督支配スル所ノモノヲ帝國保險院ト爲ス (Reichsversicherungsamt) 獨立ノ官衙ニシテ總裁竝ニ數名ノ評定官ハ勅任ノ終身官タリ又有期ノ評定官トシテハ聯邦議會ヨリ選任セラレタル四名ノ代表者竝ニ數名ノ傭主及ヒ被傭者ノ代表者アリ被保險者ノ權利ト利益ニ關スル重要ナル爭議ハ此機關ニ依リテ公平ナル裁決ヲ仰クコトヲ得ルナリ

第二款 獨逸聯邦ニ於ケル公立火災保險

獨逸諸聯邦ニ於ケル公立火災保險ハ第三編ニ於テ其沿革ヲ詳述セルカ如ク保險制度ノ領域ニ於テ顯著ナル地位ヲ占ムルト同時ニ保險政策上ノ重要ナル計畫ニシテ「ワグナー」氏ノ如キハ其保險論ニ於テ極力之ヲ稱揚セリ今試ニ其論點ヲ紹介スレハ左ノ如シ

第一 公立火災保險ハ保險ノ普及ニ利アリ殊ニ小額ニシテ自ラ危險率ノ高キ物件ニ保險ノ保護ヲ與フルヲ得ルコト國民經濟上最重要ナル效果ナリ營利會社ハ兩ナカラ之ヲ避ケ相互會社ハ成ルヘク富裕者ノ善良ナル危險ヲ選擇セント欲シ小規模ナル相互組合ハ此需要ヲ迎フルニ適スト雖トモ多クハ基礎薄弱ニシテ確實ヲ保シ難シ是ニ於テカ大計畫ノ公立火災保險ノミ獨リ此恩澤ヲ與ヘ得ルナリ

第二 公立火災保險ハ故意若クハ不注意ナル超過保險ヲ防止スルニ利アリ

被保險者ノ輕忽惡意保險者及ヒ其代理人ノ慾念ハ國家社會ニ非常ナル損害ヲ與フルノ原因タル超過保險ノ成立ヲ助ケ營利保險ニ於テ此弊害猖獗ヲ極ムト雖トモ公立火災保險ニハ此弊ナシ

第三 公立火災保險ハ正理公道ト神速ヲ以テ保險契約上ノ權義ヲ處理シ又不道理ナル保險金ノ支拂ヲ排斥ス

第四 公立火災保險ハ支拂能力ニ於テ勝レリ而シテ之ニ關シテ又次ノ二箇ノ優點アリ

第五 公立火災保險ハ危險ノ豫防鎮壓ニ便益ヲ有ス是レ從來存在セル建築取締及ヒ火災警察ト最密接ナル連絡ヲ有シ得レハナリ

第六 保險金支拂ノ能力ハ先ツ損害發生時ニ於ケル資産ノ豊富ナルニ懸リ次ニハ既往ノ保險料ヨリ生シタル準備金將來ニ於ケル保險料收入ノ信用及ヒ相互會社ニ於ケル追徴金竝ニ再保險ノ授受ニ關係シ會社資本ノ多寡モ亦與テ力アルヘシ然ルニ獨逸ノ實際ニ於テハ民業保險會社ノ資産力其

責任額ニ對シテ充分ナリト言フ能ハサルカ如シ然レトモ此般ノ事情ハ姑ク措キ株式會社ノ主要ナル弱點ハ經費ノ增高ト株主配當ノ多カラシムトヲ望ムノ餘リ火災ノ僅少ナリシ年度ノ利益ヲ積立ツルニ吝ナルニアリ獨逸ニ於ケル公立火災保險ハ之ニ比シテ遙ニ多ク用意スル所アルナリ

第七 公立火災保險ハ安價ナリ株式會社ハ經營ノ著實ヲ失シ廣告料紹介料等ニ費用ヲ投スルコト多ク相互會社ニ比シテ大ニ不經濟ニシテ從テ被保險者ノ負擔大ナリ然レトモ公立火災保險ハ相互會社ヨリモ更ニ經濟的ニシテ此ノ如キ冗費ヲ要セサルノミナラス多クハ地方官公衙ヲ利用シテ其業務ヲ行フカ故ニ最安價ニ火災保險ヲ供給スルヲ得ルナリ

第八 公立保險ハ所謂役人風ヲ以テ人民ニ臨ムカ故ニ公衆ニ對シテ愛嬌ト親切ヲ缺クトノ非難ハ常ニ聞ク所ニシテ一理ナキニ非スト雖モ近來公立事業ニモ此點ニ於テ改善セル所アリ且民間業者ノ愛嬌ト親切ハ却テ其弊害ノ方面ヲ露呈シ代理者ノ戸戶勸誘ノ如キ火災保險ニ於テモ亦生命保險

ニ於ケルカ如ク親切ニ過キタリ

是等ノ諸點ハ曩ニ掲ケタル一般國立保險ノ利益ト重複スル所ナキニ非スト雖トモ國立論ノ重鎮タル「ワグナー」氏ノ言トシテ之ヲ以テ本節ノ小引トシ是ヨリシテ火災災害竝ニ家畜ノ保險ヲ國營トシ國立保險ノ政策ヲ執ルコト最盛ナル「バーエルン」王國ニ於ケル公共火災保險ノ一斑ヲ記述シ以テ此種ノ代表タラシメント欲ス

「バーエルン」ノ王國火災保險所ハ創立以來既ニ百有餘年ヲ經過シ其間幾多ノ改善ト進歩ヲ得テ今日ニ至レルナリ次ニ其組織ノ要領ヲ掲ケン

第一 保險ノ目的ハ建物牆壁寺鐘屋時計大風琴祭壇其他工場製造所ノ諸設備特ニ機關機械類ニシテ建物中保險ヨリ除外セララルハ百馬克以下ノ建物見世建築小屋石油庫火藥製造所火藥庫煙花製造所綿火藥其他ノ爆發物ヲ製造又ハ貯藏スル建物竝ニ孤立セル要塞建造物等ナリトス

第二 保險加入ハ一般ニ被保險者ノ任意ナリト雖トモ或種類ノ建物ニ對シ

ヲハ法律ヲ以テ加入ヲ強制セリ例ハ國有又ハ公有ノ建物寺院學校等ノ如シ

第三 建物ハ之ヲ他ノ保險所又ハ保險會社ニ保險セシムルヲ得ストシ以テ實際上ノ獨占ヲ行ヘリ

第四 保險ノ脫出又ハ保險金額ノ減少ハ抵當權者ノ同意ヲ經サルヘカラス

第五 建物ノ價額ハ王國火災保險技師(査定員)又ハ其助手若クハ公許建築家ノ鑑査ニ依リテ之ヲ定メ鑑査者ハ宣誓ヲ以テ其確實ナルヲ證言スルモノトス

第六 填補セラルヘキ損害ハ建物又ハ其附屬物ノ火災又ハ其消防ノ爲メニ發生シタル一切ノ損害ニシテ雷火ノ損害モ亦填補セラレ破裂爆發ノ危險モ亦保險所ニ於テ引受クルコトヲ得

第七 保險所ノ業務ハ其公共的性質ヨリシテ從來各地地方廳警察署裁判所等ノ幫助ヲ以テ地方分權的ニ之ヲ執行セシカ又其統一ヲ得ンカ爲メ近時

ニ至リテ首府(ミュンヘン)ニ王國保險局ト名クル中央官衙ヲ設ケ局長參事官技師長書記主簿檢算以下ノ吏員ヲ置キテ諸般ノ統轄的事務ヲ行ヒ各地ニ技師ヲ駐在セシメ危險測定及ヒ損害調査ノ事ヲ鞅掌セシム

第三款 獨逸聯邦ニ於ケル公立家畜保險

家畜保險ノ必要ト其實行ノ困難ナルハ前編ニ於テ說述シタル所ナリ而シテ此必要ハ獨リ社會ノ各個人ニ對スルノミナラス國家經濟ノ上ニ多大ノ重量ヲ有シ其困難ハ獨リ國家ノ監督ト助長ニ依リテノミ最能ク除去セララルノ事實ヲ學ヒ得タル結果獨逸ニ於ケル數多ノ聯邦ニ於テハ國家的公共的家畜保險ノ創設シ以テ各種家畜ノ改善ト繁殖ニ資スルコト甚大ナリ而シテ公共的施設ノ狀態ハ民業家畜保險ノ企畫ニ對シテモ亦有益ナル參考ト教訓ヲ與フルモノナルヲ以テ茲ニ其一班ヲ記述セント欲スルナリ
上古ノ猶太人種カ馬匹ノ保險ヲ行ヒ殆ント之カ保險事業ノ起源トモ謂ツハ

キコトハ本書ノ初ニ之ヲ述ヘタリ「ヴェルナー」氏ハ「パレストアイン」ニ於テ行ハレタリシ驢商ノ規約ヲ掲ケテ言ヘリ即チ組合員ノ一人カ盜賊又ハ野獸ノ爲メニ其驢馬ヲ奪ハレタルトキハ政府ヨリ新ナル驢馬ヲ給與スルコトトシ而モ組合員カ自己ノ懈怠ニ因リテ損害ヲ招キタルトキハ給與ヲ爲サス又金錢ヲ以テハ填補ヲ行ハス新ナル驢馬ヲ要セサル者ニハ何等ノ給與ヲモ爲サスト定メタリト吾人ハ之ヲ見テ古昔ノ幼稚ナル人種カ保險ニ關スル人意の危険ヲ考量シ又政府ノ干渉ヲ求メタルコト斯ノ如ク聰明ナリシニ一驚ヲ喫セサルヲ得サルナリ

中世ニ至リテハ「ギルド」ノ多クカ家畜ノ死亡盜難救濟ヲ目的トセシコト是亦曩ニ述ヘタル如クナルカ「イスラント」ニ在リテハ既ニ十二世紀ニ於テ各郡家畜保險ノ機關ヲ有シタリト云ヘリ「ブレーマー」氏ハ近世獨逸ニ於ケル家畜保險ノ創始ヲフリードリヒ「大帝」ノ功ニ歸シタリ即チ千七百六十五年ノ法令ニ依レハ「シュレジーン」國內ノ各行政區畫ハ官立相互保險會社ヲ設立シ區畫内ノ

畜牛家ハ強制ニ由リテ皆此會社ヘ加入セサルヘカラス此ノ如クニシテ當時漸ク盛ナラントセシ牛疫ノ損害ヲ全國ニ平均セント謀リシナリ

他ノ獨逸諸國ニ於テモ之ニ倣ヒテ強制家畜保險ヲ創設スル者比比トシテ相尋キ民間ニ於テモ亦地方的相互保險會社ヲ設立シテ其供給ノ欠缺ヲ補ハント欲セリ而シテ其規模宏大ナル最初ノ者ハ有名ナル「マジウス」氏ノ設立シタル獨逸家畜保險會社ニシテ千八百三十三年「ライプチヒ」ニ生レタリシカ千八百四十年ニ至リテ廢業スルノ止ムヲ得サルニ終レリ之ニ尋テ年年幾多ノ會社設立セラレシモ失敗スルモノ亦少カラス現今獨逸國中ニ於テ二十有餘ノ私立會社アリト雖トモ事業ノ範圍ハ概ネ狭小ニシテ主トシテ馬匹ノ保險ヲ行ヒ且殆ント皆相互組織ニ據レリ是レ大規模ナル株式會社ノ營利的經營ハ成功ノ望稀薄ナル爲メニ非スヤ

獨逸經濟學ノ大家「ロッシェル」氏モ家畜保險ハ小區域ニ於ケル相互組合ニ非サレハ實行スルヲ得スト主張セシカ此種ノ組合ハ相互的監視ノ效驗顯著ナルノ

利アリテ比較的ニ善ク繼續シ今日ト雖トモ獨逸國內ニ於テ其存在スルモノ
 千ヲ以テ數フヘシ獨逸保險學會會報第九卷第三號所載「エルリヒ氏ノ「佛蘭
 西ニ於ケル家畜保險」ト題スル論文ニ據レハ現今同國ニ於ケル大規模ナル家
 畜保險會社ハ十二箇ニシテ皆相互組織ニ據リ此外千九百八年七月一日現在
 統計ニ據レハ國內ニ七千ノ地方的相互保險組合アリト言ヘリ

此ノ如キ相互主義ニ基キタル地方的小保險組合ノ存立ハ即チ國家的公共保
 險ノ基礎ニシテ之ヲ聯合シテ大團結ヲ作り以テ危險ノ分配ヲ完全ニセハ即
 チ永久ノ存續ト繁榮ヲ得ヘキナリ此原理ニ基キテ計畫セラレタル「バーデン
 公國ノ公立家畜保險ハ千八百九十年六月二十六日ノ法律ヲ以テ實施セラレ
 「エルザス、ロートリンゲン」ニ於テハ千八百九十六年各地公立家畜保險組合ノ
 國家的聯結ヲ行ヒ「ニーダー、エステライヒ」ハ千八百九十八年議會ノ決議ト獨
 逸皇帝ノ裁可ヲ經テ國立畜牛保險ヲ設置セリ

「ザクセン」王國ニ在リテハ千八百九十八年六月二日ノ法律ヲ以テ國立屠畜保

險所ノ設置アリ生後三箇月以上ノ牛豚ニ對シテ屠殺後ノ損害ヲ保險シ國庫
 ハ經營ノ費用全部ト支拂保險金額ノ百分ノ二十五ヲ補助シ又必要ナル資本
 金ヲ供給セリ瑞西モ亦家畜保險ノ獎勵ニ勉メ強制家畜保險ヲ實行スル所ノ
 州ニ對シテハ國庫ハ填補支拂額ノ百分ノ二十ヲ補給スヘキ旨共和國議會ニ
 於テ決議セリ

「バーエルン」王國ニ於ラモ地方的保險組合ハ夙ニ發達シ千八百九十四年ニ於
 テ其數五百四十二ニ及ヒシカ之ヲ統一シテ財的基礎ヲ確實ナラシムルノ必
 要ヨリシテ内務省ニ於テ家畜保險法案ヲ起草シ千八百九十五年王國議會ノ

- 下ニ於テ之ヲ討議セリ其法案ノ要領ヲ掲クレハ凡ソ左ノ如シ
- (一) 相互組織ニ據ル公立家畜保險所ヲ設置シ其事務ヲ王國保險局ニ委任
 ス

- (二) 此建設ノ目的ハ畜牛及ヒ山羊ノ狀態又ハ止ムヲ得サル屠殺ヨリ生ス
 ル損害ニ對シテ保險ヲ行フニ在リ

- (三) 保險所ハ其役員會ニ於テ定メタル公定定款ヲ採用シ任意ニ加入ヲ申込ミタル地方家畜保險組合ヨリ成ル
 - (四) 地方家畜保險組合ハ任意的相互保險ニシテ其組織及ヒ被保險者トノ關係ハ公定定款ノ規定ニ依ル
 - (五) 保險所ハ地方組合カ公定定款ノ規定ニ從ヒ支拂フヘキ填補金額ノ半額ヲ負擔シ又其經費ハ他ニ財源ナキ場合ニ限り保險金額ノ比例ヲ以テ之ヲ各地方組合ニ賦課シテ徵收ス
 - (六) 國家ハ毎年保險所ノ經費ノ一部ヲ償ハシムル爲メニ補助金ヲ給與シ又其積立金ヲ備ヘシムル爲メニ一時ノ補助金ヲ付與ス
- 此法案ハ翌千八百九十六年五月ニ法律ト爲リ同年十一月一日ヨリ實施セラレ其成果頗ル良好ナリシカハ王國政府ハ又馬匹保險所設置ノ企畫ヲ試ミ千九百年四月馬匹保險法ヲ發布セリ地方ノ馬匹保險組合ヲ結合シ相互自由加入主義ニ基キ官吏ヲシテ中央ノ事務ヲ行ハシムル等總テ前記家畜保險法ニ

於ケルト同一ナルヲ以テ今之ヲ贅セス
 次ニ少シク馬匹保險ニ關スル保險契約ノ主要條項ニ就テ之ヲ略述スレハ凡ソ左ノ如シ

- (一) 組合ニ於テ保險セサル馬匹
 - イ 年齡八歳未滿ノ駒若クハ十五歳以上ノ馬
 - ロ 疾病ニ罹リ又ハ其疑アリテ獸醫ノ診斷上全治ノ見込又ハ健康ノ證明ナキモノ
 - ハ 總テ使役ニ適セサル現狀ノ持續スルモノ
 - ニ 時價一千馬克ヲ超過スル馬匹
- (二) 組合ヘ加入ヲ許ササル者
 - イ 馬匹ノ管理飼養ヲ等閑ニ付シ又ハ馬匹虐待ノ行爲明白ナル者
 - ロ 馬匹賣買營業者
 - ハ 屠馬營業者

(三) 馬匹ヲ組合區域外ニ飼養シ又馬匹ヲ既ニ他ニ保險シタル者
馬匹ノ検査及ヒ評價ハ組合ノ委員之ヲ行ヒ委員會ノ決議ヲ以テ價格ヲ決

定スルモノトス而シテ委員ハ馬匹ノ體質年齡營養狀態其他必要ナル點ヲ
精査スルヲ要ス但委員會ニ於テ決定シタル評價ニ付キ異議アル被保險者
ハ特ニ設ケラレタル仲裁裁判ヘ之ヲ申立テ其判決ニ依リテ確定ヲ見ルモ
ノトス

(四) 馬匹ノ登録

評價ノ手續ヲ了リタラハ保險臺帳ニ登録シ之ヲ以テ保險ノ效力ヲ生ス

(五) 厩舎検査

毎年春秋二期ニ於テ組合委員會ヨリ指名セラレタル委員ハ組合員全體ノ
厩舎検査ヲ爲シ保險ニ付スヘキ馬匹ヲ届出テタルヤ被保險馬匹カ確ニ舍
内ニ現存セルヤ其管理使用ノ方法カ適當ナルヤ價格用途ニ變更ナキヤ等

ヲ調査シ不當ノ事實又ハ變更ノ事故アラハ之ニ適應セル處置ヲ執ルモノ
トス

(六) 損害ノ防止及ヒ届出ノ義務

保險ニ付シタル馬匹發病被害又ハ斃死シタルトキハ組合員ハ之ヲ組合ヘ
届出サルヘカラス又馬匹疾病ニ罹ルトキハ其所有者ハ遲滯ナク獸醫ヲ招
キ獸醫ナキ場合ニハ他ニ適當ナル者ヲ招キテ之カ治療勸告ニ從フノ義務
アリ是等ノ義務ヲ守ラサル者ハ損害填補ノ請求權ヲ失フモノトス

(七) 損害ノ評價及ヒ決定

斃死又ハ必要上撲殺シタル馬匹ニ對スル評價ハ登録價額ヲ標準トスト雖
トモ事故發生ノ際ニ價格ノ減少セリト認メラルヘキ状態ノ存スル場合ニ
ハ登録價額ヨリモ減額スルコトヲ得ルモノトス但被保險者カ此評價ニ異
議アルトキハ仲裁裁判ニ訴フルコトヲ得

(八) 損害填補

馬匹ニ生シタル損害額ハ前項ノ如ク評價決定セラルト雖トモ組合ハ之カ全部ヲ填補スルニ非スシテ決定セラレタル評價額ノ十分ノ七ヲ支拂フノミ又左ノ場合ニハ損害ノ填補ヲ爲サス

イ 戦争變亂火災又ハ落雷ニ因リテ生シタル損害

ロ 國家ヨリ賠償金ヲ下付スヘキ規定アル獸疫ニ因リテ斃死シタル馬匹及ヒ反則ノ爲メニ國家ヨリ賠償金ノ下付ヲ止メラレタル者ノ所有馬匹

ハ 飼養及ヒ管理ノ宜シキヲ得サル爲メ又ハ所有者若クハ管理者ノ怠慢ニ因リテ生シタル損害

ニ 他ノ保險組合又ハ會社ヘ保險ニ付シタル馬匹

ホ 馬匹ヲ競走ニ用ヒ之カ爲メニ生シタル損害

以上掲ケタル所ハ馬匹保險法ノ條項中ヨリ重要ナルモノヲ摘出シタルニ過キヌ要スルニ之ニ依リテ家畜保險カ如何ニ特種ナル態様ヲ以テ行ハルルカヲ例示シ詳細ハ別ニ専門ノ記述ニ讓ラント欲スルナリ

第四款 獨逸聯邦ニ於ケル公立雹害保險

我邦ニ於テモ降雹ノ爲メニ作物ヲ害セララルコトハ往往各地ニ其消息ヲ聞クコト無キニ非サルモ之ヲ歐洲諸國ニ比スレハ殆ント言フニ足ラス故ニ雹害保險ニ關スル記述ニ筆紙ヲ費スハ我邦ニ於テ稍不急ナル閑談ニ流ルルノ感ナキニ非スト雖トモ霜害虫風害旱害水害ノ如キ農作物ノ收穫ニ對シテ甚大ナル影響ヲ與フルモノ尙此外ニ少カラス其潛勢ハ常ニ宇宙ノ奈邊ニカ伏在シテ地上ヲ瞰下シツツアリ是等ノ災害ニ對シテ農民ヲ保護シ延テ國富ノ增長ヲ圖ルニ屈強ナル農業保險ノ問題ハ我邦ニ於テモ決シテ輕輕ニ付セラルヘキモノニ非ス古昔ニハ却テ屯倉義倉備荒貯蓄等ノ制度アリシニモ拘ハラズ維新以來之ヲ閑却シ農民日ニ窮境ニ陥ラントセリ明治十九年ノ春、ベ
I、マエツト氏農業保險論ヲ起草シ痛切ニ農業保險ノ必要ヲ説キ仔細ニ其方法ヲ指示シテ之ヲ政府當局者ニ勸メシモ願ミラレス此論文ハ明治二十三年邦

文ニ譯セラレテ江湖ニ紹介セラレシモ世人ハ之ニ向テ多クノ注意ヲ拂ハサリシニ似タリ而シテ之ニ先チテ明治十三年時ノ大藏卿大隈伯マエツト氏ノ建議ニ基キテ備荒貯蓄法ヲ制定シ之ヲ全國ニ實施セシカ幾モナクシテ廢止セラルルニ至リ爾來十數年而モ農本ノ我國ニ於ケル農政ノ要目タル農業保險ノ施設ト講究全ク地ニ委スルニ至レルハ吾人ノ怪訝ニ堪エサル所ナリ而シテ電害保險ハ農業保險ノ一部類ニシテ今之カ概要ヲ記述スルトキハ我國ニ於テ睡沈セル農業保險ノ問題ニ一活ヲ與ヘテ或ハ此種ノ政策ノ振興ニ資スル所アラント期待スレハナリ

歐洲諸國ノ住民ハ昔ヨリ降雹ノ害ヲ恐ルルコト甚シク密雲暗澹トシテ重來シ閃電轟轟トシテ耳ヲ劈クニ至リテハ之ヲ以テ天神ノ赫怒ナリト信シ供物加持祈禱ノ類ヲ以テ之ニ伴フ所ノ強電ヲ免レント欲シタリ是レ畢竟歐洲諸國ニ於ケル電害ノ猛烈ナルヲ證スルノ事實ニシテ近代火災海上等ノ保險ノ發達ニ鑑ミテ之ヲ電害ノ救濟ニ應用シ既ニ十八世紀ノ中葉ニ於テ獨英佛等

ノ諸國ニ之カ設備ヲ見ルニ至レリ然レトモ初ハ固ヨリ地方ノ小區域ニ於テ行ハレタル相互的救濟ノ組合ニ過キス千七百八十年蘇格蘭ニ設立セラレタル電害保險會社コソ稍大規模ナル會社ノ嚆矢ナリシナレ

獨逸ニ在リテハ千七百九十一年ブラウンシュヴァイヒニ始メテ相互保險會社ヲ見タリシモ暫時ニシテ倒レ千七百九十七年ニ今尙繁榮セル「メクレンブルヒ」會社創立セラレ爾來多數會社ノ興倒ニ接セシモ要スルニ電害保險モ亦家畜保險ノ如ク株式組織ノ大會社ハ之ニ適セスシテ地方的ノ相互會社又ハ相互組合カ寧ロ成功ヲ遂クルカ如シ即チ千九百年ニ於テ獨逸ニ存在セル民業會社中二十ハ相互組織ニシテ五ハ株式會社ナリ

而シテ地方的小組合ハ固ヨリ總テノ時代ニ亘リテ存在シ殊ニ「バーエルン」ニ於テハ千八百三十一年地方電害保險組合ノ設立ニ關スル法律ヲ發布シ常ニ此保險ノ普及ヲ獎勵シタルヲ以テ千八百八十四年ニ至リテハ王國內ノ地主ニシテ公私ノ電害保險ニ加入セル者一萬二千六百人即チ全地主數ノ百分ノ

- 二五ニ及ヒ其契約金額二千六百萬馬克ニ達セリ形勢此ノ如クナルヲ以テ同年法律ヲ制定シテ「バーエルン」王國雹害保險所ヲ設置シ公共ノ事業ヲ開始スルニ至レリ其設計ノ大要左ノ如シ
- (一) 保險加入ハ全ク任意ニシテ民業ト並立セシム
 - (二) 保險料ハ確定ニシテ追徵義務ナク毎年三月一日保險年度ノ始ニ支拂義務發生スルモ之カ徵收ハ十月收穫後トス
 - (三) 事務ハ總テ「バーエルン」王國建物火災保險所ニ附屬セシメテ之ヲ行フカ故ニ經費ヲ要スルコト最少シ
 - (四) 國庫ノ補助ハ毎年四萬馬克トシ千八百九十八年以後ハ毎年二十萬馬克トス
 - (五) 基本金ヲ百萬馬克トシ其利子毎年四萬馬克ハ之ヲ積立金トス
 - (六) 積立金ハ必要ナル場合ニハ其現在額ノ四分ノ一ヲ限リ損害填補ニ充當スルコトヲ得

(七) 保險料收入 國庫ノ補助金ヲ以テ尙損害ノ金額ヲ支拂フニ足ラサルトキ

ハ評價セラレタル損害額ヲ其八割マテ削減スルコトヲ得

(八) 保險料收入ト國庫ノ補助金ヲ以テ尙前項ニ據ル八割ノ額ヲ支拂フニ足ラサルトキハ積立金ノ四分ノ一ヲ以テ之ニ充當ス

(九) 損害ノ評價ハ老練ナル實際家ノ地主ヲシテ之ヲ行ハシム

(十) 各行政區畫ニ屬スル保險所ノ組合全員及ヒ農會ヨリ一名宛ノ代表者ヲ王國政府ヨリハ其事務官一名ヲ出席セシメ是等ヲ以テ委員會ヲ組織ス

此法律ハ三月一日ヨリ施行セラレ以來「バーエルン」王國ノ農事ニ於ケル數十年來ノ欠缺ハ補足セラレタリ即チ之ニ尋テ普通保險約款ヲ規定シ諸般ノ書式保險ノ目的收穫價額保績階級各地雹害ノ階級果實ノ階級其他重要ナル事項ヲ定メタル中ニ就テ超過保險ヲ防止センカ爲メ各地方ニ於テ栽培セラレタル諸種ノ果物ニ對スル收穫價額ヲ當該郡縣ト協約シテ八箇ノ階級ニ區分シタルカ如キハ非常ナル煩勞ナリト雖トモ而モ之ヲ以テ充分其目的ヲ達スル

ヲ得タルナリ何トナレハ保險契約者カ任意ニ高キ保險價額ヲ定ムレハ之ニ相當スル保險料ヲ支拂ハサルヘカラス而モ事故發生ニ際シテハ實際ノ損害額ノミヲ填補セラルルニ過キサレハナリ

保險所ノ存立ヲ危殆ナラサラシメンカ爲メニハ各地ニ於テ引受クヘキ保險金額ニ一定ノ制限ヲ置ケリ是レ電害保險ノ繁榮ハ殊ニ危險ノ良好ナル分配ニ俟タサルヘカラサレハナリ而シテ之ニハ果實ノ種類ト其害セラレ易キ程度ヲ參酌セサルヘカラサルコト無論ニシテ保險所ノ事業カ擴大セラルルニ連レテ此制限モ亦漸漸擴張セラルルコト固ヨリ言フ俟タサルナリ

予ハ是ヲ以テ電害保險ノ記述ヲ終ラントスルニ臨ミ千八百九十九年「バーエ」保險局ノ編纂シタル報告中ヨリ左ノ數言ヲ掲出セント欲ス

火災電害兩保險所ノ制度ハ常ニ唇齒輔車ノ關係ニ立テリ後者ハ前者ニ依リテ經費ヲ節約シ前者ハ損害發生ノ機會ヲ減ス是レ世人ハ電害ニ遭フモ產ヲ破ラス產ヲ破ラサレハ依然トシテ其家居ヲ愛護スレハナリ

是レ豈火災電害ノ保險ノミナランヤ凡テノ保險ハ常ニ唇齒タリ常ニ輔車タリ

第五款 「ニュージールランド」官營生命保險

普通ノ生命保險ヲ民間事業ト竝行シテ經營シ良好ナル成績ヲ收メ得タルハ「ニュージールランド」政府ノ保險事業ナリ即チ千八百六十九年「サア、ジュリアス、ウァー」氏此殖民地ノ議會ニ於テ政府ヲシテ生命保險事業ヲ經營セシムルノ動議ヲ爲セシカ當時國內ノ事情カ之ヲ歡迎セシメタルヨリ異議ナク通過シテ翌年三月ヨリ之ヲ實行スルニ至レリ當時「ニュージールランド」ニテハ未タ自國ノ保險會社無カリシノミカ他國ノ會社ト雖トモ未タ支店ヲ設置スルニ至ラス契約ノ締結ニ手數ト日子ヲ要スルコト少カラサリシヨリ世人カ自國保險ノ創設ヲ希圖セシト恰モ本國英吉利ニ於テ曩ニ迷ヘタル如キ生命保險事業

ノ紛亂時代ニ會シ有名ナル「アルバート」アルビヨン」ノ二會社カ悲慘ナル破産ニ陥リシ爲メニ公衆カ新業ノ確實ナル保證ヲ翹望セシトニ因リ議會ニ於テモ異議ナク通過シ翌年保險廳ヲ設置シテ之ヲ開始セリ

保險業務執行ノ任ニ當レル者ハ保險廳總裁ニシテ勅任官タリ其下ニ「アクチュアリー」支部長其他ノ吏員アリ代理人ヲ囑託シテ被保險者ノ募集ヲ掌ラシムル等全ク民間生命保險會社ト異ル所ナシ而シテ恰モ相互保險會社ニ於ケルカ如ク毎年ノ收支ニ剩餘ヲ生スルトキハ其全部ヲ保險契約者ニ分配シ支拂ノ能力ニ就テハ政府之ヲ保證セリ

保險ノ種類モ亦民業會社ト同シク養老保險ニシテ保險料ハ民業會社ヨリモ低廉ナリ契約ノ方法モ更ニ特異ノ點ナク保險ノ申込ヲ受ケタルトキハ醫師ヲシテ身體診査ヲ行ハシメ保險約款モ亦成ルヘク寛大ヲ旨トスト雖トモ概シテ私設會社ト大差ナシ財産利用ノ方法並ニ權能ニ就テハ嚴重ナル制限アリ政府ノ出納局長法務次長國有財産評定局長租稅局長及ヒ國定受託官ト保

險廳長官ノ六人ヲ以テ組織セル役員會ノ決議ヲ以テ之ヲ執行シ其利用方法ハ主トシテ「ニュージランド」政府ノ公債地方公債土地抵當貸附保險證券擔保貸ナリトス

保險廳ハ又千八百九十三年ヨリ政府ノ文官ニ對スル生命保險ヲ開始シ就職ノ際年齢四十歳以下ナル者ヲ強制シ六十歳受取養老保險ニ加入セシメタリシカ任意ニ加入スル者亦頗ル多シ而シテ千九百一年ヨリ危險職業ニ關スル傭主ノ責任保險ヲ開始シ漸次發達シツツアリト云ヘリ要スルニ新開地ニ於ケル社會ノ尙未タ渾沌タル状態ハ秩序ト安固ニ就テ比較的ニ優勝ナル政府事業ヲ要望シ政府モ亦眞ニ國民ノ利便ノ爲メニ全ク民間保險事業ノ組織ニ倣ヒ而モ非營利的ノ施設ヲ以テ之ニ應シタルカ爲メニ今日ノ成功ヲ見ルヲ得タルモノニシテ而モ保險需要ノ發達ハ獨リ此政府事業ノ供給ヲ以テ足レリトセス政府保險ニ尋テ設立セラレタル數箇ノ民業保險會社モ亦確實ニ其業務ヲ行ヒ著著トシテ發達シ官民相頼リ相競ヒテ近時濠洲生命保險事業ノ

實際的竝ニ學問的光輝ヲ世界ノ舞臺ニ發揮スルヲ得ルニ至レリ

第四章 民業保險ニ對スル國家ノ干涉

民業保險ノ經營ニ對シテ國家カ如何ナル方針ヲ執ルヘキヤハ國立保險ノ問題ト共ニ保險政策ノ兩翼ヲ成ス所タリ而シテ絶對的ニ之ヲ自由ニ放任スヘシト云フカ如キハ机上ノ論争ニ言辭ヲ費スマテモ無ク世界ニ於ケル既往ノ歴史ト現在ノ事實カ歷然トシテ其非ヲ立證シ加フルニ本書ノ各編ヲ通シテ宣揚スルニ勉メタル保險制度ノ社會的竝ニ國家的性質ト最後ニ說述シタル國立保險ノ諸要項ハ國家ノ民業保險ニ對シテ執ルヘキ大體ノ方針ヲ指示セシムルニ充分ナリ然ラハ國家ハ民業保險ニ對シテ如何ナル干涉ヲ試ムヘキヤ其程度ト方面ト形式ニ至リテハ固ヨリ民度ト國情ニ由リ精緻ニシテ慎重ナル考量ヲ要スト雖トモ先ツ其干涉ハ之ヲ二種ニ別テ國家カ斯業ノ弊害ヲ防遏スルニ止マル所ノ消極的干涉ト進シテ之ヲ保護助長シテ其利益ヲ發揚

セントスル所ノ積極的干涉ト爲スコトヲ得ヘシ後者ハ固ヨリ之ヲ箇箇ノ保險事業ニ對シテ行フヲ得ルコト稀ニシテ保險制度ノ全體ニ對シテ施スヘキモノナレハ本編第二章ニ述ヘタル保護獎勵ノ方法ハ即チ之ニ該當セン而シテ前者即チ消極的干涉ノ程度ハ又之ヲ左ノ三箇ノ階段ニ分ツヲ得ヘシ

一 公安ヲ害スル所業ヲ防遏スルコト

保險ノ名稱ヲ利用シテ富講無盡ノ如キ浮薄ニシテ危險ナル行爲ヲ行ヒ社會善良ノ風俗ヲ壞リ人民ノ福利ヲ害スルカ如キ所業ニ陷ルノ弊ヲ防遏スルノ程度ニ止ムルヲ云フ例ヘハ類似保險ヲ禁止シ免許ヲ受ケサル保險業者ヲ制裁スルカ如シ

二 公安ヲ保全シ竝ニ會社ノ破産ヲ防クコト

官許ヲ得テ正當ニ組織セラレタル會社ト雖トモ其運轉ノ方法ニ當テ失スレハ支拂ノ能力ヲ失シテ破産ノ悲境ニ陥ラサルヲ保セス而シテ凡ソ事業ノ失敗中保險會社ノ破産程悲惨ナル害毒ヲ社會ニ流スモノ少キカ故ニ國

家ハ最善ク之ヲ監督セサルヘカラス西洋諸國ニ於テハ保險會社ノ破産ヲ見ルヲ以テ國家ノ恥辱ナリトセリ而シテ破産ノ豫防ノ爲メニハ業務及ヒ財産状態ノ報告及ヒ検査ニ關スル規定ヲ設定シテ之ヲ嚴重ニ實行スルカ如キヲ以テ普通ノ方法トス

三 公安ヲ保全シ破産ヲ防クノ外正義ニ反スル行爲ヲ抑壓スルコト

當ニ被保險者ヲシテ破産ノ損害ヲ被ラシメサルノミナラス保險者ヲシテ契約ノ條件又ハ保險金ノ支拂等ニ就テ不當ナル處置ヲ行ハシメサルヲ目的トスルモノニシテ例ヘハ保險約款ノ條項ヲ認許シ竝ニ之カ實行方法ヲ監視スルカ如キ或ハ保險料同盟ヲ禁止スルカ如キ干涉ノ最高度ニ屬スルモノタリ

各種保險ノ思想カ漸漸普及シ之カ利用益擴張セラレテ保險事業ノ國利民福ニ對スル影響ノ甚大ナルコトカ深く認識セラルルニ從ヒ之ニ對スル國家ノ干涉ハ勢益綿密ニ且嚴重ナラサルヘカラス殊ニ近代實業家ノ個人的成功ト

致富ノ慾念カ無限ニ增長シ之カ保險事業ノ如キ社會的の制度ノ本質ト杆格スルカ爲メニ發生スル諸般ノ弊害日ニ多キヲ加ヘントスルニ因リ世界各國ニ於ケル此方面ノ政策ハ益嚴肅ナル監督ヲ執行セントスルノ趨嚮ヲ有シ殊ニ生命保險事業ハ無數ノ保險契約者ヨリ徵收スル所ノ保險料ノ著シキ部分ヲ責任準備金トシテ蓄積スル爲メ財産ノ増嵩急速ニシテ激甚ナル結果之カ一國經濟界ノ大勢力ト爲リテ金融市場ヲ支配シ政府ヲ動カシ而モ究極無數ナル被保險者ヲ犠牲ニスルノ恐アルコト既ニ世人ノ憂懼ヲ惹クニ足レルヨリ特ニ此事業ニ對シテ最峻嚴ナル干涉ノ方法ヲ施行スルニ至リ曩ニ生命保險ノ歴史ヲ攷スルニ當リテ述ヘタル如ク最近北米合衆國ノ諸洲ニ於テ其保險業法ニ附加セラレタル諸規定ニ至リテハ殆ント前記第三ノ階段ヲ踏破シテ將ニ極天ニ冲セントスルカ如ク例ヘハ新育克州ノ改正法ニ於テ生命保險會社ハ据置利益分配付ノ契約ヲ爲スヲ得ス保險廳ノ認可ヲ得スシテ不動産ヲ取得スルヲ得ス又絶對的ニ株式ヲ取得シ又ハ之ヲ擔保トスル貸付ヲ爲スヲ

得ス年額五千弗ヲ超過スル俸給ハ取締役會ノ決議ヲ經ルニ非サレハ支出スルヲ得ス又百弗以上ノ支拂ニハ必ラス受領證ヲ保存スルヲ要シ相互會社ノ役員選舉ニ社員總代會ノ如キ機關ヲ以テスル間接選舉ヲ許サスト云フカ如キ役員ノ人物ト財産ノ蓄積利用ニ關スル規定ノ外毎年締結スル所ノ新契約ノ金額竝ニ其費用ヲ制限シ保險契約ノ種類保險約款ノ内容亦苛酷ナル檢束ヲ被リ立法者ハ之カ爲メニ斯業ノ發達ト隆盛ヲ阻害スルモ更ニ意トセサルノ意氣ト覺悟ヲ表示セリ然レトモ又眼ヲ轉シテ社會ノ秩序ト商業道德ノ發達シタル文明ノ舊邦國例ヘハ英國ノ如キニ在リテハ今ヤ斯業ノ鞏固ト正道ハ微少ナル法律ノ保庇ト社會ノ明敏ナル監視ニ依リテ保證セラレ例ヘハ千八百七十年ニ制定セラレタル生命保險會社條例ニ依リ新設會社ハ衡平裁判所ヘ二萬磅ノ供託金ヲ爲スコト他種ノ保險ヲ兼業スルトキハ其計算ヲ別箇ニスルコト每事業年度末ニ於ケル決算及ヒ事業ノ報告書ハ別ニ定メタル法定ノ書式ニ據リテ之ヲ作成シ以テ商務省ヘ届出ツヘキコト等ノ規定ニ依リ

テ耐來善良ナル發達ヲ遂ケツツアリ

斯ノ如ク民業保險事業ニ對スル國家ノ消極的ノ干涉ハ國ニ由リテ寬嚴ヲ異ニスルコト霄壤モ霄ナラス故ニ其如何ナル程度カ最適當ナリヤト言フカ如キ絶對的ノ議論ハ到底之ヲ唱フルニ由ナク又最狹ク之ヲ現在我國ノ狀態ニ照合シテ研究スルトセシカ是レ寧ロ實際問題ノ論議ニ屬シ學問的講究ヲ主眼トスル本書ノ目的ニ偕合セス加フルニ此方面ノ事項ハ近來保險法研究ノ範圍擴張ト共ニ保險公法ナル題目ノ下ニ若クハ保險契約法ノ領域内ニ在リテモ保險者ノ法律上ノ資格カ論セラルルニ際シテ稍細密ニ論究セラルルヲ以テ茲ニハ之ヲ省略シ唯其最普通ナル要目ヲ掲出シテ斯道ヲ辿ル者ノ標石ト爲サントス

第一 國家ノ免許

保險事業ヲ創設シ之ヲ經營スルニハ國家ノ免許ヲ得サルヘカラサルハ今日世界各國ニ於テ英國ヲ除クノ外殆ント一般ニ認メラレ且實行セラルル

所ノ主義ニシテ投機ニ走リ易キ取引所多數人民ノ財産ヲ保管運轉スル所ノ銀行特ニ貯蓄銀行カ此檢束ヲ受クルヲ以テ怪シムニ足ラストセハ恰モ兩者ヲ竝行スルカ如キ保險會社特ニ生命保險會社ニ於テ之アルハ當然ナルヘシ我國ニ於テモ保險業法第一條ニ此旨ヲ規定セリ

第二 保險者ノ資格

保險事業ハ古昔ヨリ獨リ海上保險カ一人ノ資本家ニ依リテ營マレタル例外アル外殆ント常ニ組合又ハ會社等ノ團體組織ヲ以テ實行セラレタリ是レ保險ノ如キ廣濶ナル範圍ト多數ノ人民ニ對シテ巨大ニシテ恒久ナル責任ヲ負擔スル性質ノ事業ニ對シテハ浮露ノ如キ一人ノ克ク當ルヘキニ非サルハ固ヨリ私人ノ盛衰ニ影響セララルコト多キ合資合名組織ノ會社モ亦之ニ適セス獨リ確定ニシテ永久ナル財産ニ依リテ成立セル株式會社竝ニ保險契約者ノ自治體タル相互會社ヲ以テノミ之ヲ經營スルヲ得ヘシトノ議論モ亦甚窮屈ニ似タルモ而モ近時ノ定説ニシテ此外尙地方的ノ相

互保險組合ヲ許スヲ以テ最適當ナル政策ト爲スカ如シ我保險業法第二條ニハ之ヲ株式會社及ヒ相互會社ノ二者ニ限レリ

第三 業務ノ獨行

保險事業ト他ノ事業ノ兼營ヲ許ササルコトニシテ保險業者カ多數ノ保險契約者ヨリ集メタル財産ヲ他ノ企業ノ爲メニ毀クルカ如キ危險ヲ避クル爲メニ設クル所ノ制限ナリ殊ニ生命保險事業ハ其利害ノ影響スル所更ニ廣大ナルヲ以テ他種ノ保險事業ト兼營スルコトヲ許サレサルコト亦近時普通ニ行ハルル所ノ主義ナリトス我國ニ於テハ保險業法第二條及ヒ第三條ニ之ヲ定メタリ

第四 資本金額ノ制限

保險事業ハ保險料ヲ集メテ之ヲ支拂フモノナルカ故ニ別ニ資本金ヲ要セストハ往往唱ヘラルル所ナレトモ是レ集メタル保險料カ常ニ經費ト保險金ノ支拂竝ニ責任準備金ノ積立ニ充テラレテ尙餘裕アルカ如キ場合ノミ

ヲ想像シタル者ノ言ニシテ此事業ノ性質トシテ屢發生スル所ノ力反對ノ場合ニ應センニハ保險ノ種類ト事業ノ範圍ニ從ヒテ相當ナル資本金額ヲ要スルコト言フ埃々サルナリ我國ニ於テハ資本金ノ最低額ヲ十萬圓ト定メタリ(保險業法第十六條及ヒ第二十七條)

第五 業務ノ公示

保險事業ハ概シテ複雑ナル計算ニ據ルカ故ニ動モスレハ事業運轉ノ衝ニ當ル者カ之ヲ利用シテ私曲ヲ行フコト無シト言フヘカラス故ニ其業務及ヒ財産ノ状態ハ常ニ公然社會ニ明示セラレ利害關係者ハ之ニ依リテ其信用ヲ詳ニスルヲ得サルヘカラス此事項ハ斯業就中生命保險事業ニ對スル監督上絶對的ノ必要ニシテ進歩シタル社會ニ於テハ之ヲ以テ保險契約者自身ノ監督ヲ促スノ材料トシ他種ノ干涉ヲ要セスト論スル者スラアリ我國ニ於テハ保險業法第九十二條ヲ以テ保險會社ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ其帳簿ヲ閉鎖シ總會終結ノ後遲滞ナク財産目錄貸借對照表事業報告

書損益計算書及ヒ基金ノ償却其利息ノ支拂準備金竝ニ利益又ハ剩餘金ノ配當ニ關スル決議書ヲ主務官廳ニ提出スヘキコトヲ定メ同第九十三條ニハ保險契約者被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ會社ノ定時總會終結ノ後前掲ノ諸書類ヲ閱覽シ又ハ其謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得ル旨ヲ規定セリ而シテ是等書類ノ方式ハ別ニ發布セラレタル保險業法施行規則ニ明示セラレ社會ヲシテ一見會社ノ状態ヲ窺知セシムルニ便ニセリ

第六 財産利用法ノ制限

保險會社ノ財産ハ保險契約者ノ貯金ナリ故ニ最確實ニ之ヲ運用セサルヘカラス又其多大ナル責任ニ對スル擔保ノ資金ナリ故ニ最容易ニ且確實ニ換價セラレヘキモノタルヲ要ス而モ保險業者ノ利念ト其不慎重ハ屢之ヲ正反對ナル利用方法ニ驅ルノミナラス甚シキニ至リテハ財産ヲ蓄積シ任意ニ之ヲ利用シ竝ニ之ヲ盜使スル爲メニ生命保險會社ヲ經營セント欲ス

ル者アルニ至ルヲ以テ殊ニ社會的ノ監視ト制裁ノ不充分ナル社會ニ於テハ國家ハ嚴重ナル法規ヲ以テ之ニ制限ヲ加ヘサルヲ得ス我國ニ於テハ保險業法施行規則第九條ヲ以テ全財産ノ五分ノ一以上ヲ一種ノ利用方法ニ集中セシメサル規定ヲ設クル外其種類ニ就テハ獨リ生命保險會社ノ責任準備金利用ノ方法ヲ認可スルノミニシテ何等定ムル所ナキカ故ニ此點ニ於テ甚不充分ナリト言ハサルヘカラス

第七 主務官廳ノ検査

法律ハ稍善良ナル人民ニ對シテコソ罪惡ノ豫防タルヲ得レトモ奸惡ノ徒ニ對シテハ殆ント其效力ナシ故ニ國家ハ行政機關ニ依リテ常ニ其豫防ノ效力ヲ保證セサルヘカラス保險會社ノ業務及ヒ財産ノ状態ヲ何時ニテモ検査スルコトヲ得ルトシ且實際常ニ之ヲ執行スルコトニ依リテ始メテ諸般ノ法律的制限カ遵守セラレ被保險者カ安堵スルヲ得ヘキナリ我保險業法第十條ニ之ニ關スル規定アリ然レトモ實際之ヲ行ハサレハ何カセン

第八 不安全ナル業務ニ對スル制裁

法規ノ檢束主務官廳ノ検査等ヲ以テ斷エス斯業ノ安全ヲ圖ルニモ拘ハラズ保險會社カ被保險者ニ對シテ其責任ヲ果ス能ハサルカ如キ窮境ニ陥ルコト無キニ非ス此ノ如キ場合ニ處シテハ監督官廳ヲシテ最後ノ一撃ヲ與ヘテ禍根ヲ絶タシムルノ止ムヲ得サルアラシク新契約停止營業停止役員ノ改選事業免許ノ取消解散ノ命令等ハ皆其武器ニシテ通常行政官廳時トシテハ裁判所ニ附與セラルル所ノ權能ナリ

上記八種ノ事項ハ固ヨリ民業保險事業ニ對スル國家的干涉ノ要目ニ過キス尙詳細ハ拙著保險法第四編保險業法論及ヒ拙譯生死論第七編生命保險會社ニ對スル國家ノ監督ノ題下ニ論述セラレタリ一讀ヲ請フ

第五章 外國會社ニ對スル政策

凡テ内國ノ産業ヲ盛ニシテ外國品ノ需要ヲ減シ以テ輸入超過ノ損失ヲ少カ

ラシメントスルハ國家繁榮ノ爲メニ缺クヘカラサル思想タルハ何人モ爭ハサル所ナリ保險モ亦固ヨリ之ニ洩レス外國保險會社ノ侵入ヲ容易ニシテ之ト契約スルヲ獎勵スルカ如キハ贊スヘキ所以ヲ見ス勿論外國品ト雖トモ內國ニ於テ其比儔ヲ見ルヲ得サルカ如キ必要又ハ廉價ヲ供スル物ハ必シモ排斥スヘキニ非サルモ保險ノ如キハ內國人ノ決シテ發明スル能ハサルモノニ非サルハ勿論其價格ニ於テモ其實質ニ於テモ亦斷シテ拮抗スヘカラサルモノニ非ス若シ內國ノ會社カ外國ノ會社ニ比シテ一籌ヲ輸スヘキモノトセンカ國家ハ決シテ之ヲ放任スヘキニ非ス保護獎勵ノ道ヲ講シテ其境ニ至ラスンハ自ラ之ヲ經營スルモ可ナルニ非スヤ殊ニ火災海上其他ノ短期ナル保險ニ在リテハ外國會社ノ贏チ得ル所ハ事業上ノ利益額ニ過キサルモ生命保險ニ在リテハ年年巨大ナル責任準備金額ヲ本國へ吸收スルヲ得ルカ故ニ內國ノ財政上被ル所ノ影響決シテ尠少ニ非サルナリ然リト雖トモ國家カ外國保險會社ニ對シテ之ヲ峻拒シ若クハ特ニ苛酷ナル

檢束ヲ加ヘテ經營ヲ困難ナラシムルカ如キハ文明國ノ德義ト大國民ノ雅量ニ反スルノ措置ニシテ對手タル國家モ亦之ヲ爲ササルト同時ニ國際的均霑ノ原則ニ依リテ抗議ヲ申込ムコト無シト言フヘカラス故ニ外國保險會社ニ對シテモ亦內國ノ會社ニ要求スルノ外只外國會社ナルノ故ヲ以テ特ニ之ニ對シテ內國ノ被保險者ヲ保護セサルヘカラサル事項ヲ要求スルノ程度ニ止メ政治上竝ニ財政上ノ考察ハ自由競争保護獎勵等ノ穩和ナル方法ニ依リテ之ヲ實行セサルヲ得サルナリ今外國保險會社ニ對シテ普通ニ執ル所ノ政策ニ從ヒ其法規上ノ要項ヲ掲クルトキハ凡ソ次ノ如クナルヘシ

第一 內國ニ於ケル代表者ヲ定メシムルコト

外國保險會社ヲシテ內國ノ法律行政ニ服從セシメント欲セハ必ラス內國ニ於テ外國會社ヲ代表スル者ヲ置カシメサルヘカラス然ラサレハ外國會社ハ單ニ募集員ヲ派遣シ又ハ代理店ヲ設置シテ國內ニ營業ヲ試ミナカラ法律ノ範圍外ニ立チテ保險行政ノ監督ヲ脱スルノ不理ヲ來スヘシ故ニ代

表者ヲ選任セシメ之ニ總テノ責任ヲ負ハシメサルヘカラス我國ニ於テハ
 明治三十三年九月勅令第三百八十號外國保險會社ニ關スル件ノ第一條及
 ヒ第二條ニ此規定アリ

第二 裁判管轄ヲ定ムルコト

外國會社ヲシテ内地ニ營業セシムルニ就テハ内地ニ於テ之ヲ訴フルヲ得
 セシメサルヘカラス然ラサレハ保險契約者被保險者又ハ保險金額ヲ受取
 ルヘキ者ノ權利ヲ完全ニ保護スルヲ得サレハナリ之ニ就テハ國際私法ノ
 法則ニ據リ或ハ保險者ノ義務履行ノ地又ハ保險證券ノ作成地ヲ定メ間接
 ニ内地ノ裁判權ニ服セシムル方法アルヘシト雖トモ明文ヲ以テ之ヲ規定
 スルヲ以テ最疑義ナキ良法ナリトス我舊商法ニ於テハ第六百九十六條ニ
 保險會社ニ於テ其本店ノ所在地外ニ於テ代辦人ヲ以テ保險契約ヲ取結マ
 者ハ其代辦人ニ與ヘタル權限ノ如何ニ拘ハラス其契約ニ關シテハ代辦人
 ノ營業所ノ地ヲ管轄スル裁判所ノ裁判權ニ服從シ云云ト定メタレトモ現

今ハ此ノ如キ特別ノ規定ヲ見サルナリ

第三 供託金ヲ爲サシムルコト

内國ニ於ケル業務ノ擔保ノ爲メニ供託金ヲ爲サシムルコト又必要ニシテ
 我國ニ於テハ前掲ノ勅令第五條ニ主務官廳ハ必要ト認ムルトキハ外國會
 社ヲシテ相當ノ金額ヲ供託セシムルコトヲ得ト規定セリ而シテ此供託金
 ハ支拂ヲ確保スル爲メノ保證金ノ意ニテ一定額ヲ強制スルト生命保險ノ
 如キ場合ニ責任準備金ニ相應スル金額ヲ常ニ納付セシムルトアリ共ニ諸
 外國ニ於テ常ニ其例ヲ見ル所ニシテ現今我國ニ於テハ最寬大ナル方針ヲ
 執リ事業開始ニ際シ生命保險會社ニ十五萬圓其他ノ會社ニ十萬圓ヲ供託
 セシムルコトトシ且内國ノ保險契約者被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘ
 キ者ハ此供託金ノ上ニ優先權ヲ有スルコトトセリ

以上ハ外國會社ニ對スル特別ナル政策ノ大綱ニシテ事業ノ免許業務ノ公示
 報告義務事業ノ停止免許ノ取消等其他多クノ檢束ト制裁トハ凡テ内國會社

ニ對スルト同様タルヘク我國ノ現狀ニ關シテハ前掲ノ勅令竝ニ明治三十三年十月農商務省令第十九號ノ外國保險會社ニ關スル件ヲ見ルヘシ

第六章 保險事業ニ對スル課稅

保險事業ニ對スル課稅ノ政策ハ我國ニ於テ未タ著シキ問題タラス而シテ予ハ長ク之カ問題タラサランコトヲ希望スルカ故ニ本編ニ於テモ寧ロ此題目ヲ省略セント欲セシモ近時惡稅誅求ノ弊漸ク盛ナラントスルニ方リ聊其正理ヲ明ニシテ警戒スル所アラントスルナリ

抑保險事業ニ對スル課稅ハ之ヲ三箇ノ方面ニ於テ想像スルヲ得ヘシ曰ク保險行為ニ對スルモノ曰ク保險事業ニ對スルモノ曰ク監督ノ費用ニ關スルモノ即チ之ナリ第一保險行為ニ對スル課稅トハ吾人カ保險ニ依リテ其利益ヲ保護セント欲スル箇箇ノ行為ニ課稅スルコトニシテ通常保險契約ヲ締結スルニ際シ保險證券ニ對スル印紙稅ノ形式ヲ以テ課セラルル所ノモノトス外

國ニ於テハ保險金額ヲ標準トシテ相當印紙ノ貼用ヲ命スルカ如キ事例少カラスト雖トモ保險ノ如キ著實ニシテ國富保存ノ爲メニ必要ナル行為ニ課稅スルコトハ穩當ナル處置ト言フヘカラス殊ニ商賈的ノ保險契約ハ姑ク措キ生命保險ノ如キ社會的性質ヲ有スルモノニ對シテ之ヲ行フカ如キハ斷シテ許容スヘキニ非ス故ニ一般ニ小額ナル保險契約ニ對シテハ印紙稅ヲ免除スルヲ善シトス但我國ニ於テハ印紙稅法ニ據リテ保險證券一葉毎ニ金三錢ヲ要求スルノミナレハ之ニ就テ喋喋論議スルノ要ヲ見ス寧ロ永ク其繼續センコトヲ望ムノミ

第二保險營業ニ對シテ營業稅ヲ課スルコトハ固ヨリ道理ナキニ非スト雖トモ保險事業ヲ社會的事業トシテ之ニ依リテ資本家カ無限ニ利潤ヲ獲收セントスルノ傾向ヲ阻止セント欲シ此方面ニ於テ有ラユル干涉ヲ行ハント欲スルナラハ國家モ亦之ヲ以テ有力ナル財源ト見做スヘキニ非ス何トナレハ重稅ハ營業者ノ慾念ヲ增長セシムルト同時ニ間接ニ被保險者ノ負擔ヲ重カラ

シムルモノナレハナリ而シテ相互保險會社又ハ相互保險組合ハ營業ニ非サル故ヲ以テ此種ノ課稅ヲ免除セララルハ獨リ我國ニ於テ然ルノミニ非スト雖トモ是レ寧ロ機械的ナル恩典ニシテ相互會社ト雖トモ其基金釀出者ハ株式會社ノ株主ト同シク營利ノ念ヲ有シ又收利ノ事實ヲ示セルカ故ニ之ニ營業稅ヲ課スルハ比較上ヨリ論シテ失當ナリト言フヘカラス而シテ基金ヲ償却シ終リテ全ク資本家ノ手ヲ離レタル後ニ於テハ自然之ヲ標準トスル課稅ノ消滅ニ歸スルコト又當然ニシテ其積立金額竝ニ從業者ノ員數ヲ標準トスル課稅ノ如キハ相互タルト株式タルトニ付テ區別スヘキ所以ヲ見ス何トナレハ積立金カ餘分ナル資産ニシテ從業者ノ員數カ事業ノ規模ヲ表示スルノ點ニ於テハ兩種ノ會社ニ於テ毫モ異ナル所ナケレハナリ故ニ國家カ相互保險會社ヲ營利ト見做サス純然タル社會的ノ共濟制度ナリト認ムルノ雅量アラハ宜シク株式保險會社ニ對シテモ營業稅ノ賦課ヲ免除シ之ニ代フルニ資本家及ヒ從業者ノ利念ヲ抑制シ其満足ノ程度ニ限界ヲ畫スヘシ是レ斯業ノ

本質ニ合シタル最善ノ政策ナリ

我國ノ現行營業稅法ニ據レハ株式保險會社ハ拂込資本金額及ヒ責任準備金以外ノ積立金竝ニ所有建物ノ賃貸價格及ヒ從業者ノ員數ヲ標準トシテ課稅セラレ最近ノ問題トシテハ此稅法ノ解釋上當該官廳ハ生命保險株式會社ノ利益分配準備金額ニモ課稅セント欲シ二三ノ會社ハ之ニ對シテ訴願ヲ提出シツツアリ而シテ我國生命保險會社ノ利益分配準備金中ニハ全ク保險契約者ノ權利ニ屬スル責任準備金ト同性質ノモノアリ之ニ就テハ課稅スヘキ理由ナキコト更ニ疑議ヲ挾ムヘキニ非スト雖トモ然ラサルモノニ對シテモ之ニ課稅スルハ猶保險契約者ニ課稅スルカ如ク營業稅ノ性質ニ矛盾スルモノト言ハサルヘカラス之ヲ要スルニ營業稅法ノ規定ハ特ニ保險事業ニ對シテ慎重ナル考量ト研究ヲ經テ適當ニ改正セラレサルヘカラスナルナリ

第三保險事業ノ監督ニ關スル費用ヲ租稅トシテ保險會社ニ賦課スルコトハ前二者ニ比シテ遙ニ道理アル政策ト言ハサルヘカラス保險ニ保險ヲ要スト

ハ往往世人ノ好誑トシテ口ニスル所ナレトモ世上何レノ事物カ眞ニ保險ヲ要セサルモノアラシヤ保險事業カ今日國家ノ監督ナクシテ眞ニ社會ノ利益ト合致スルヲ得ストスレハ是レ即チ國家ノ保險ノ下ニ之カ行ハレ吾人ハ國家ノ保險ノ下ニ保險ノ利益ヲ享受シツツアルモノナレハ其保險料トシテ租稅ヲ負擔スルコトハ保險業者トシテモ被保險者トシテモ毫モ恨ムヘキ理由ナシ故ニ予ハ保險ニ對スル課稅中此性質ニ屬スルモノヲ以テ最適切ニシテ正理ニ協合セリト信セサルヲ得ス斯ノ如クニシテ國家ハ完全ナル監督ノ機關ヲ設備スルコトヲ得人民モ亦之ニ依リテ監督ノ能力ヲ論スルヲ得ルノ利益アルナリ

此種ノ課稅ハ未タ我國ニ於テ問題タラスト雖トモ泰西諸國ニ於テハ夙ニ實行セラルル所ニシテ其種類ハ通常免許料ト收入稅ノ二種ニシテ前者ハ事業ノ免許ヲ與フルニ際シテ徵收スル所ノモノニシテ米國ノ諸州ニ於テハ免許ニ一定ノ期限ヲ設ケ其滿了ニ際シテ更ニ新ナル免許料ヲ徵收スル所アリ後

者ハ通常收入保險料ノ金額ヲ標準トシ毎年其百分又ハ千分ノ若干ヲ徵收スルノ方法ナリトス保險ノ監督ト課稅ニ最嚴酷ナル米國ニ在リテハ免許料竝ニ收入稅ノ外事業報告書ノ登記料代理店ノ登録稅ノ如キ煩雜ナル課稅ヲ行ヒ或ハ監督官廳カ手數料ヲ徵收シテ生命保險會社ノ責任準備金ヲ計算スルカ如キ處アリト雖トモ此ノ如キ極端ナル事態ハ政府ノ威嚴ト保險事業ノ信用ト體面ノ爲メニ吾人ノ採ラサル所ナリ然レトモ前編ニ於テモ述ヘタル如ク保險ノ弊害ヲ防止シ損害發生ノ減少ヲ圖ルカ爲メニスル保險警察消防救護等ノ設備ニ對シ直接ニ利害ノ關係ヲ有スル保險業者ヲシテ其費用ノ幾分ヲ負擔セシムルカ如キハ第二種ノ課稅トハ稍趣ヲ異ニスト雖トモ其苛酷ニ失セサル限リハ決シテ非難スヘキニ非サルナリ

保險學綱要

終

明治四十二年四月廿五月初版印刷
 明治四十二年四月廿八日初版發行
 明治四十四年十月十二日增訂四版印刷
 明治四十四年十月十五日增訂四版發行

保險學綱要與付

定價金貳圓五拾錢

著者

 所有

著者 栗津清亮
 發行者 東京市神田區仲猿樂町一番地 波多野重太郎
 印刷者 東京市神田區美土代町二丁目一番地 白土幸力

發兌元

東京市神田區仲猿樂町

電話本局二三五四番
振替東京六五五六番

巖松堂書店

(東京市神田區美土代町三番地 印刷所)

巖松堂書店編輯部編纂

法律經濟論題輯覽

再版 定價金壹圓貳拾錢 內地送料 金八錢

本書ハ六十餘種ノ專門雜誌ニ登載セラレタル論說ニ付キ題號ト筆者、雜誌名、年度、卷數、號數ヲ掲ケ之レテ學理的部門ノ下ニ分類蒐輯シタルモノニシテ既ニ篤學家ノ好評ヲ博シタル所、今復明治四十一年以後最近ニ至ル論題ヲ網羅シテ之ニ増補ヲ加ヘタリ、本書ノ如キハ眞ニ攻學家必携ノ寶典ナリト謂フ可シ

巖松堂書店編輯部編纂

試驗問題集

第三版 定價金六拾五錢 內地送料 金八錢

本書ハ明治三十年ヨリ最近ニ至ル十三年間ノ外交官、高等文官、列事檢事、辯護士、東京帝國大學、京都帝國大學、日本大學、法政大學、中央大學、早稻田大學、明治大學等ノ試驗問題ヲ悉ク網羅シテ之ヲ各科目ニ分類シ更ニ之レヲ編章節款ニ細別シテ學理的教科書ノ二編纂シタルモノナレハ秩序整然トシテ法律學、經濟學及ヒ商業學全般ノ骨髄ヲ爲ス學生受驗者ハ勿論法曹警察官財務官教育家實業家等ノ座右ニ缺クヘカラザル好參考書ナリ

巖松堂書店編輯部編纂

法律經濟試驗問題

新二版 定價金參拾五錢 內地送料 金六錢

本書ハ明治四十二年、四十三年ノ二ケ年ニ涉リテ高等文官、列事檢事、辯護士、外交官及領事官ノ各試驗問題、東京法科大學、京都法科大學、日本、中央、法政、早稻田、明治、京都法政、大阪關西ノ各私立大學、專修學校、東京高等商業學校ノ試驗問題ヲ輯録シタルモノニシテ特ニ最近ノ試驗問題ヲ知ラント欲スルノ士ハ本書ニ依テ之ヲ明瞭ニスルコトヲ得ヘシ

巖松堂書店編輯部編纂

外交官受驗提要

第三版 定價金參拾五錢 內地送料 金四錢

外交官志望者ノ羅針盤タラント期シ其外交官試驗合格者カ自己ノ經驗ニ徴シテ一切ノ準備及ヒ心掛ヲ親切叮嚀ニ説述セラレタル筆記ニシテ累年ノ試驗問題及外交官ニ關係アル法令ヲ輯録シタルハ將來外交官タラント欲スルノ士ハ本書ニ依リテ學校ノ選擇其他ノ注意ヲ受ケルコトヲ得ヘク零既ニ學校ヲ卒業シタル士ハ本書ニ依リテ受驗中ノ心掛及試驗程度其他ノ必要事項ヲ知ルコトヲ得ヘシ

辯護士 藤 苗代監修
巖松堂書店編輯部編纂

高等官判檢事辯護士受験提要

全一册 定價金參拾五錢 內地送料
金四錢

本書ハ高等文官、判檢事、辯護士ノ試験ニ應セント欲スルハノ爲メニ受験準備、受験資格、志願手續、試験規則ヲ細説シタルモノニシテ向來参考書目、最近試験問題、關係法律令ヲ添ヘ完全ナル指針ヲラシメントナリ

法學士 吉田舜天丸著

經濟學問題解説

全一册 定價金七拾錢 內地送料
金八錢

著者ハ新進ノ法學士、其自己ノ經驗ニ基キ各種試験ニ應スル者及ヒ學生ノ爲メニ經濟學問題答案集ノ必要ナルコトヲ感シ數多ノ時日ヲ費シテ本書ノ稿ヲ成セリ乃チ本書ハ經濟學一般ニ涉リ從來ノ諸試験各私立大學ノ試験問題ヲ假リテ一々明快ナル解説ヲ與ヘ且ツ必要ナル問題ノ足ラサルモノハ之ヲ補ヒ以テ經濟學ノ模範答案集トス問題總計百五十八問、合シテ之ヲ看レハ組織整然タル一ノ經濟學書ナリ學生及ヒ受験者ノ必ラス一本ヲ備ヘサル可カラサルモノナリ

法學博士 小林丑三郎著

純正經濟學

第七版 定價上製金貳圓五錢 金拾五錢
全一册 定價金壹圓八拾錢 金拾貳錢

本書ハ一般ノ經濟學ト其組織及論法ヲ異ニシ殊ニ最近ノ材料ニ基キ經濟學上ノ諸機關ノ組織、利害等ヲ詳論シ且歐米及本邦ノ各經濟制度並ニ比較統計ヲ掲ケ以テ純理上ヨリ幾多重要ノ實際問題ヲ解釋シ經濟學上ノ理論ト經濟學上ノ實際ト一致セシメントセラレタルモノナレハ未タ先生ノ學說ヲ窺ハサル者ハ勿論既ニ講義ヲ聽キ又ハ著書ヲ讀ミタ 否ニ在リテモ一讀セザル可カラサルモノナリ

東洋大學講師 石川義昌譯

セーリン グマン氏 經濟原論

全一册

原著ノ眞價如何ハ今更歐々ヲ須ヒスシテ既ニ何人モ之ヲ認ムル所、譯者ノ譯文亦多年ノ精鍊ヲ經タルモノニシテ明快暢達、世界ノ經濟學界ニ珍重セラレツ、アル名著ヲ傳フルニ於テ些ノ遺憾ナキモノナリ幸ニ舊學ノ士ノ精讀ヲ待ツ

法學博士 松岡均平譯

最近經濟思潮之變遷

全一册

商學士 瀧本美夫著

財政學講義

全一册 定價金壹圓五拾錢 內地送料
金拾貳錢

上卷內容

緒論 ◎地域團體及國家 ◎財政 ◎財政學
歲出 ◎政務ノ範圍 ◎支出ノ増加 ◎經費ノ區分
總論

歲入

私經濟的收入 ◎國家ノ事務施行ニ關スル財政主義 ◎官有財產收入 ◎官業收入
租稅總論 ◎租稅ノ發生及發達 ◎租稅存在ノ理由 ◎租稅ノ原則 ◎租稅體系 ◎租稅區分 ◎累進稅下比例稅 ◎租稅ノ轉嫁 ◎所得稅：財產稅 ◎收益稅
營利稅ノ一(繼續的營利稅) ◎所得稅：財產稅 ◎收益稅
營利稅ノ二 ◎交通稅 ◎財產移轉稅 ◎證券稅 ◎通行及運輸稅 ◎資格獲得稅 ◎交通稅ノ徵收法
營利稅ノ三 ◎相續稅 ◎土地增價稅 ◎當籤稅
公經濟的收入 租稅各論 營利稅ノ三 ◎相續稅 ◎土地增價稅 ◎當籤稅
支出 稅 ◎煙草稅 ◎酒稅 ◎醬油稅 ◎砂糖稅 ◎食鹽稅 ◎骨牌稅 ◎狩獵免許稅 ◎織物稅 ◎石油稅 ◎關稅 (租稅各論附錄) 兵役免除稅

手數料及特別賦金

本書ハ前東京高等商業學校教授トシテ且ツ財政學界ノ重鎮トシテ令名噴々タル瀧本先生力其深遠豐富ナル學識ト平易明快ナル文章トヲ以テ財政學最新ノ學理ヲ説カレタル最上ノ教科書最良ノ參考書ナリ理論ノ精緻ナルハ勿論加フルニ實際ノ微細ナルヲモ既キテ洩ス所無シ苟クモ財政學ヲ實際ニ應用セント欲スル人及ヒ財政學最新ノ學說ヲ知ラント欲スル人ハ必ラス本書ニ依頼セヨ

行政裁判 關口健一郎著

所得稅法要義

全一册 定價金八拾五錢 內地送料
金八錢

法學士 財部靜治著

統計學汎論

全一册 定價金壹圓五拾錢 內地送料
金拾貳錢

從來斯學ニ關スル著述之レ無キニアラス而モ議論精透、記述詳悉、眞ニ斯學ノ「オノソリテ」ヲ得ルノ莫著ヲ求メハ遺憾ナカク指チ屬スルニ際シテ得ル者著者財部先生ハ京都帝國大學ニ斯學ノ講座ヲ擔任シ名聲既ニ藉其タリ先生ノ斯著ハ實ニ其多年ノ積蓄ヲ披瀝セルモノニシテ又ハ先生力從來ノ著述界ニ一新生面ヲ開カントスルノ意氣ヲ窺フニ足ルモノアリ苟クモ斯學ノ研鑽ニ志アルノ士ハ本書一讀ノ勞ヲ吝ム勿レ

法學士 廣中佐兵衛著

獨逸殖民新論

全一册 定價金壹圓貳拾錢 內地送料 金拾貳錢

法學博士 矢作榮藏著

不動產銀行論

全一册 定價金七拾五錢 內地送料 金八錢

內容

●緒論 ●日本勸業銀行農工銀行改造案ノ由來 ●農工銀行ノ要求 ●日本勸業銀行ノ要求 ●法律回遊ノ習 慣 ●營利主義 ●農工銀行ノ發達ヲ助ケサルコト ●貸付ノ 金利高キニ失スルコト ●利益多キ貸付ノ種類 ●市街地不動産所有者ノ要求 ●政府ノ監督及ヒ保護 ●營 業者ニ對スル監督及ヒ保護 ●勸業銀行ニ對スル保護 ●農工銀行ニ對スル保護 ●資本需要者ノ保護 ●債權所持者ノ保護 ●勸業債 券ノ亂用 ●割増金 ●娯會社債券發賣 ●勸業農工兩銀行改造案 ●農業ニ對スル貸付資本ノ割合ヲ減ス ●農業貸付ノ 賤價 ●聯想セシムル業務 ●監督制度 ●銀行ノ ●不動產貸付法案及ヒ大日本勸業會社 實例

法學博士 上杉慎吉著

婦人問題

全二册 定價金壹圓 內地送料 金八錢

婦人問題トハ何ソヤ、男子獨リ人ニシテ婦人ハ人ニ非サルカ、婦人ハ必ラス結婚セサルヘカラサルカ、婦人ハ獨立ノ入タルコトヲ得サル カ、婦人ハ教育ヲ享ケテ天賦ノ知能ヲ發揮スル權能ナキカ、婦人ハ男子ノ附屬物使用物ニ止マルカ、男子獨リ國民ニシテ婦人ハ國民ニ非 サルカ、是レ婦人問題ナリ、婦人問題ハ政治問題ナリ、社會問題ナリ、特ニ經濟問題ナリ、著者西遊數年親シク歐米ニ遊盛ナル婦人運動 ナリ觀シ、又幾多之ニ關スル著作ヲ涉獵シテ、同胞婦人ノ爲メニ、世道人心ノ爲メニ憂フル所アリ、乃チ本書ヲ公ニシテ 穩健ナル婦人間 題解答ノ指針ヲ示メント欲ス、憂世ノ士ノ一讀ヲ要スルモノナリ

法學博士 小河滋次郎評註 無名氏譯案

監獄夢物語

全一册 定價金五拾錢 內地送料 金六錢

著者無名氏實ハ有名ノ某氏、外國監獄參觀ノ記事ニ寄セテ監獄制度ノ長短ヲ云々ス 其輕妙洒脱ノ筆致ハ讀者ヲシテ卷ヲ措ク能ハハラシム 而モ玩味一番スルトキハ諷刺ノ意旨外ニ溢ルルカ如ク小河博士ノ評註亦兩脫著讀ラズ 而モ論鋒ノ一層銳利ナルヲ見ル併セテ之ヲ讀ムニ 綱索々タル監獄制度論ナリ政テ之ヲ夢物語ト云フモ固ヨリ痴人夢ヲ說ク者ノ若キニ非サルナリ

海軍軍醫 三段崎 景之著

工場法釋義

全一册 定價金六拾錢 內地送料 金六錢

著者卷頭ニ序シテ曰ク「本邦最初ノ工場法ハ記念スヘキ明治四十四年三月二十八日ヲ以テ發布セラレタリ、東洋唯一ノ一等國民ハ茲ニ社 會政策ノ第一歩ヲ踏ミヌ。百勿勿レ我工場法ハ不完全不體裁ナリト、形體先ツ具ハル、之ヲ大成シ之ヲ運用スルコトハ吾人國民ノ双肩ニ 掛ル所ノ責任ニアラスヤ。法ハ死物ナリ之ヲ活用スルハ吾人國民ノ任務ニアラスヤ、徒ラニ之ヲ非議シテ快トナスノ徒ヨ、何ソ眞面目ニ 之ヲ研鑽考究セサル。來レ工場主、工場職員、學生、労働者、余輩ハ諸君ト共ニ衆ニ先チテ時勢ヲ提供セル此好個ノ社會的活問題ヲ仔細 ニ解剖シテ其ノ真相ヲ窮ハント。本書ハ實ニ斯ノ如キ意氣ヲ以テ工場法ノ沿革、議會ノ論戰ヲ略述シ、斯法ノ條ヲ逐テテ明快ナル解説 ナ加ヘラレタルモノナリ

法學士 清瀬一朗著

工業所有權概論

全一册 定價金壹圓六拾錢 內地送料 金拾貳錢

特許權、意匠權、商標權、實用新案權等各種ノ工業所有權ニ亙リテ實體的法理ヲ解説シ兼テ手續法規ヲ説明シタルモノハ本書ナリ、未ダ 此種ノ著書無キ今日ノ學界ニ於テハ最モ珍重セラレサル可カラサルモノナリ

特許辨理士 松本 靜史著

特許法要論

全一册 定價金壹圓貳拾錢 內地送料 金拾貳錢

特許法ノ改正アリシヨリ未ダ之レガ解説ヲ試ミテ以テ實務家發明家ノ指針ヲシムルノ書無シ。是レ本書ノ出ル所以ナリ、本書ハ學理的 編述ニ據リテ斯法一般ノ理論ヲ解キタルモノニシテ内外ノ學說ヲ參酌シ、特許局審決例及ヒ大審院判決例ヲ引照シ、記述丁寧、議論精緻、 添ユルニ詳細ナル用紙手續ノ指針ヲ以テシタルハ特許實務家ノ爲メニ必須ノ要書ナリ

早稻田 服部文四郎著

高等商業教育論

全一册 定價金壹圓參拾五錢 內地送料 金拾貳錢

●緒論 ●高等商業教育ノ沿革 ●現今歐米ニ於テ本論 ●一般商業教育ノ必要並ニ初等、普通商業教育ト高等商業 校ノ設立 ●高等商業教育ノ日本ニ於ケル高等商業教育ノ必要 ●高等商業教育ノ地位 ●修學論 ●高等商業教育ニ入學前ノ 校ノ研究 ●高等商業教育ノ學科 ●高等商業教育ノ修業年限 ●高等商業教育ノ教授法 ●高等商業教育ノ校ノ設備 ●高等商業教育ノ 著者歐米ニ遊學スルコト七年親シク各國ノ商業教育制度ヲ視察シテ歸朝シ現ニ早稻田大學商科ニ教授ヲ執レリ今ヤ其多年ノ研究ニ基 キ豐富ナル材料ヲ採集シテ高等商業教育論一編ヲ成ス著者ノ博識ト能文トヲ以テ高等商業教育ノ沿革、我邦及歐米各國ノ制度ヲ論シ進ン テ高等商業教育ノ必要、目的、學科ヲ叙述シ終ニ至リテ修學論一篇ハ入學ノ覺悟、學校ノ選擇、修學ノ心得、就職ノ方針ヲ說ク教育行政 ノ當路者、學校經營者ハ勿論學生モ父兄モ實業家モ政治家モ必ス一讀スルノ要アル可シ

法學博士 粟津清亮著 簡便生命保險論

全一册 定價金壹圓 內地送料 金八錢

生 死 論

全一册 定價金貳圓六拾錢 內地送料 金拾貳錢

仲買人ノ權利義務

全一册 定價金四拾錢 內地送料 金四錢

內容 ◎緒言 ◎空米相場ト何ソヤ ◎受渡ノ意思ナキモノハ犯罪ナリヤ ◎他ノ取引所ノ相場ニヨリ自己ノ取引所ノ相場ヲ高低スルハ犯罪ナリヤ ◎仲買人ノ取所ノ使用人ニ非ス ◎仲買人ノ客ニ對スル義務ト何ソヤ ◎仲買人ノ客ニ對スル權利ト何ソヤ ◎存ムハ詐欺取財力 ◎證據金ハ賤金ナリヤ ◎二十丁張三十丁張ハ賭博ナリヤ ◎衝合セハ取引所法違反力 ◎代金支拂ノ意思ナキ買取ハ犯罪ナリヤ

本邦ノ現行法令ニ據リ仲買人ノ權利義務ヲ論述シ併テ取引上各種ノ難問題ヲ解説シタルモノナレハ仲買業者ハ勿論荷クモ投機界ニ出入セラルル士ハ是非一本ヲ備ヘサル可ラス

商學士 小林行昌著 倉庫及稅關

合本 第三版 定價金參圓 內地送料 金拾六錢

倉庫及稅關 編

假製 定價金壹圓貳拾錢 內地送料 金拾貳錢

內容 ◎倉庫ノ業務 ◎各國ノ倉庫業 ◎証券法律論 ◎倉庫ノ經營 ◎保税倉庫 ◎參考法規 ◎倉庫書式

稅關及稅關 編

假製 定價金壹圓五拾錢 內地送料 金拾貳錢

內容 ◎緒論 ◎稅關ノ徵集スル稅金及諸收入 ◎輸出獎勵金 ◎稅關ノ組織及所在地 ◎貨物輸出入手續 ◎異議及訴願 ◎各國ノ稅關 ◎關稅定率法 ◎協定稅率 ◎各國輸入稅率表 ◎稅關書式

本書ノ著者カ早稻田大學講師トシテ多年研鑽講說セル所ニ基キ倉庫及稅關ニ關スル學理及實務ノ兩方面ニ亘リテ一切ノ事項ヲ記述シタルモノニシテ、文章平明、說明詳密加フルニ法律經濟理論ノ精緻ヲ以テテ廢ク商業政策ヲ論シテ洽ク内外ノ實例ヲ述ヘ併セテ必要ナル賭數ノ實例帳簿ノ書式ヲ網羅ス

◎東京朝日ノ評ニ、記述詳細、説明懇切、有益第二ト、◎毎日電報ノ評ニ、商業發達ニ伴ヒ倉庫稅關ノ知識ハ必要トナレリ實業家ハ必ラス本書ニ學ヘト、◎中外商業ノ評ニ、解説盡サレサル無ク學者ノ參考タルト共ニ實務家必讀ノ良書ナリト、◎時事新報ノ評ニ、法律實務ノ三方面ヨリ倉庫及稅關ヲ論シ文章平易、叙事明快、現在將來ノ實務家ニ有益ノ書ナリト、◎明治評論ノ評ニ、一般學理ノ外ニ各國ノ實例ヲ詳述シ現在將來ノ從業者及一般關係者ノ唯一ノ好指針ナリト、◎銀行通信錄ノ評ニ、全編議論ト實際トヲ兼テ且ツ諸外國ノ事例ニ就キ懇切ナル説明ヲ付シ添ルニ必要ナル書式ヲ以テテ今當今ニ有益ナル書ナリト

法學士 花岡敏夫著 貨物運送ト其判決例

全一册 定價金八拾五錢 內地送料 金六錢

海運 論(上卷)

全一册 定價金貳圓 內地送料 金拾貳錢

著者海外留學ノ間主トシテ海運ノ研究ニ從事シ歸來早稻田大學ニ之ヲ講スルモノ既ニ三年、其遺稿ニ至リテハ贅言ヲ俟タスシテ著者ノ盛名之レヲ證セリ。近時世界ノ交通網々類繁ニシテ斯業ノ研究倍々盛ナラントス而モ誠テ我學界ノ現狀ニ見ルニ未タ學生實業家ノ爲メニ適切ナル書籍之レアルヲ聞カス、著者基之ヲ體ミ乃チ本書ノ稿ヲ起ス、材料ノ斬新ニシテ豐富ナル、記述ノ詳密ニシテ明快ナル、蓋シ近時稀ニ觀ルノ大著ナリトス。苟クモ斯業ノ研究ニ志アル士本書ヲ一讀セスシテ可ナランヤ

法學士 鹽田 環著 船員 論

全一册 定價金壹圓拾錢 內地送料 金八錢

著者ハ海法ニ造詣深キノ人、今其研鑽ノ餘ニ成レル本書一編ヲ公ニス、船長及ヒ海員ノ地位並ニ其權利義務ヲ論スルコト詳密ヲ極メタリ海法研究者ニ取リテハ實ニ見逃ス可カラサル好參考書ナリ

重要商品學講義

全一册 定價金壹圓七拾錢 內地送料 金拾六錢

現時ノ文明ハ其半ハ物質的文明ナリ經濟上ノ生存競争トハ乃チ物資ノ爭奪ヲ意味ス經濟競争ニ稱ナリ稱セント欲スルモノハ物資ノ研究ヲ忘ルヘカラサルナリ本書ハ乃チ此物資研究ヲ目的トスルモノニテ著者カ海軍經理學校教官トシテ同校生徒ニ講述セル所ノ原稿ニ加除訂正チ加ヘテ割調ニ附セルモノナリ内容ハ主トシテ著者カ職務上得タル所ノ材料ヲ以テ組織セラルルハ特色トスル所ニシテ實業學校教職員、學生、會計官吏、商工業實務家各種ノ方面ニ共通スル參考資料トシテ江湖ニ提供ス

斗 4F 29

前韓國 山口 豐正 著 朝鮮之研究

新一册 定價金 壹圓 內地送料 金拾貳錢

著者ニ韓國財務官トシテ其地ニ在ルコト多年今偶々閑ヲ得テ本書ノ稿ヲ起ス蓋シ世間流布ノ書籍駁粗案ニシテ人ヲ誤マツモノ多キナ概シ精細正確ナル材料ニ依リテ適切ナル指針ヲ提供セントスルノ意ニ出ツ故ニ朝鮮ノ地勢、氣候、風俗ヨリ行政組織、教育、交通、産業界ノ事情等凡百ノ事ハ最新ノ材料ニヨリテ町嚮親切ニ記述シタルモノナレハ世間ノ類書ト其選ヲ異ニス苟クモ朝鮮ノ事情ヲ知ラント欲スル人ハ此一本ヲ備ヘラル可シ

法學士 田中 鐵二郎 著 商標法要論

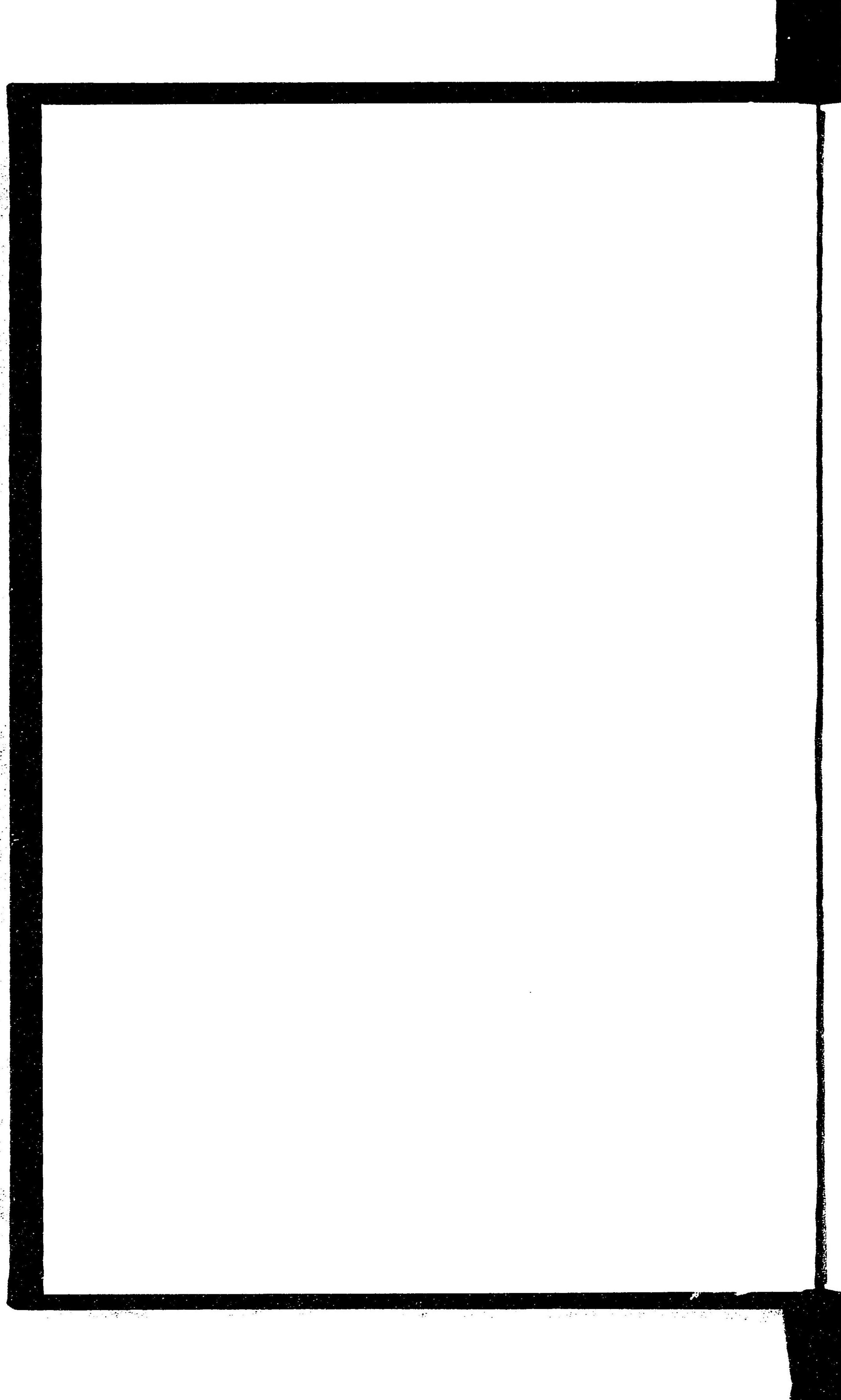
新一册 定價金 壹圓 內地送料 金拾貳錢

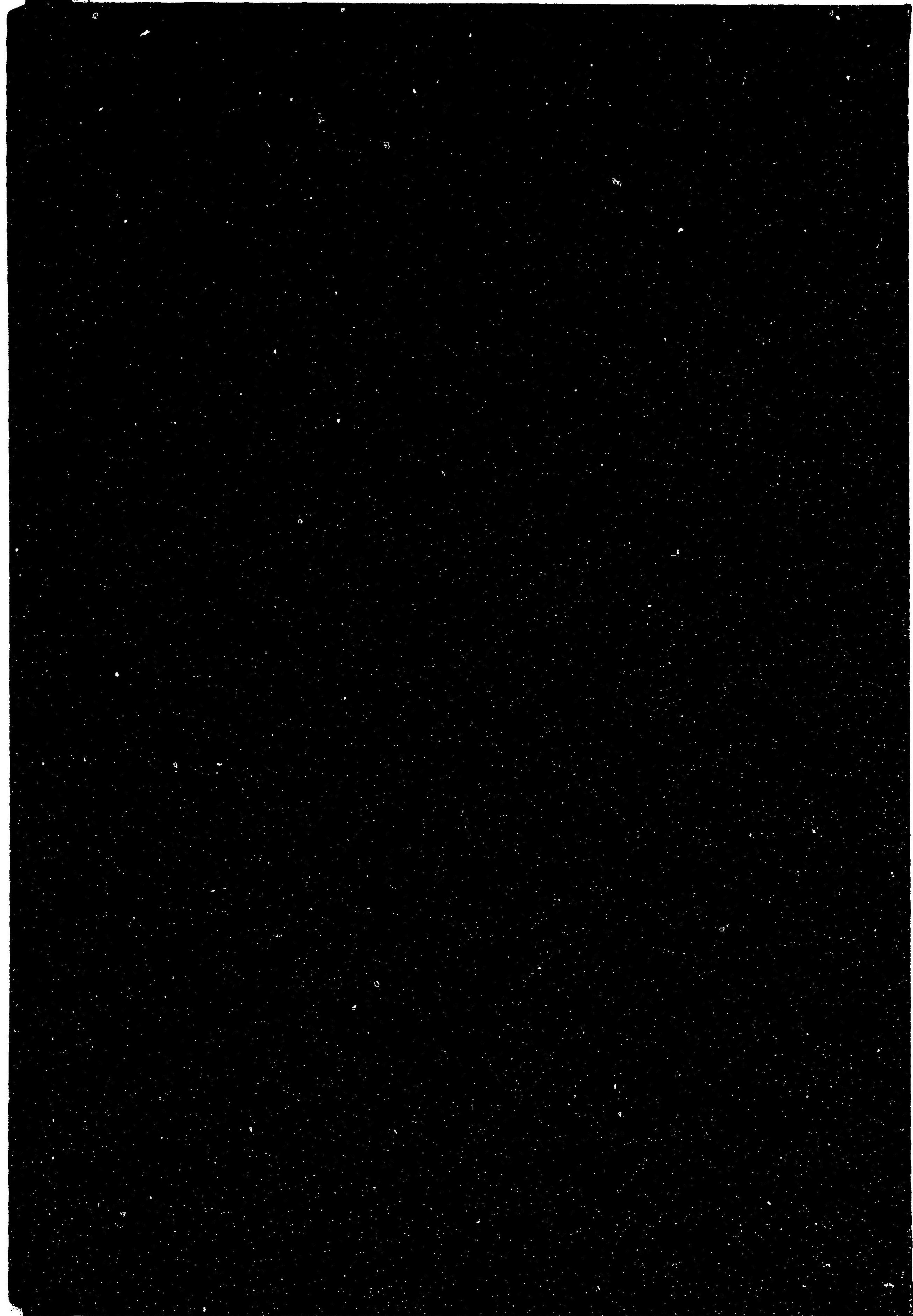
著者ハ現ニ特許局事務官ノ職ニ居リ親シク斯法適用ノ實際ニ當レルノ人ナリ、本書ハ主トシテ實務家ノ指針ヲラシメン爲メニ著作セラレタルモノニシテ議論簡明ニ、記述平易ニ、多クノ實例ニ就テ説明シ且ツ添ユルニ審決例集、商標法及ヒ關係諸法規ヲ以テス

東京稅務 監督局 屬 安光 力 著 印紙稅法精義

新一册 定價金 七拾五錢 內地送料 金八錢







339
A 971h
(h)

041263-000-6

339-A971h(h)

保険学綱要

栗津 清亮/著

M44.10

BDF-0474



